

奥州市環境基本計画策定委員会（第3回） 議事録

○ 日時

令和8年2月13日（金） 14:00～17:00

○ 会場

奥州市役所本庁舎 7階 委員会室

○ 出席者（敬称略）

委員

渡邊ユリ、若生和江、佐々木 孝、渡邊 登、渋谷晃太郎、花澤 淳、住吉啓史、阿部記之、
菊地昭宏、本明 満、千田有美

事務局（GX推進室）

千葉室長、及川主幹、大内副主幹、高橋主査、神田主査、高橋主任、アジア航測株式会社

欠席

【委員】千葉 一彦、小澤 悟、千田 充

○ 次第

- (1) 【報告】市民・事業者アンケートの結果報告について
- (2) 【報告】市民WS、庁内WGについて
- (3) 計画構成、分野別環境像、環境指標等について
- (4) 地球温暖化対策実行計画の削減目標について
- (5) その他

1 開会	
及川主幹	<p>皆様お世話になっております。GX推進室の及川でございます。</p> <p>それでは開会にあたりまして、私の方から会議の成立についてご報告させていただきます。</p> <p>本委員会につきましては、奥州市環境基本計画策定委員会設置要項第5条第2項の規定によりまして、委員の半数以上の出席がなければ開催することができないと定められております。本日午後2時現在で委員14名中11名の委員が出席しておりますので、本委員会が成立していることをご報告いたします。</p> <p>では、ただいまより第3回奥州市環境基本計画策定委員会を開会いたします。</p>
2 挨拶	
及川主幹	<p>二番の挨拶に進みます。はじめに渋谷委員長のご挨拶をお願いいたします。</p>
渋谷委員長	<p>皆さんこんにちは。今日は一転してすごく暖かくなりましたけれども、ちょっと前まではものすごく寒くて大雪があつて、特に青森とか大変な豪雪になったと思うので、気候変動の大きなうねりみたいなものが現れの一つだと、夏暑いだけじゃなくて、いろんな変化が極端に大きくなってくるといふような感じだと思います。</p> <p>多分明日、明後日ものすごく暖かくなってくると思うんですけども、またすぐに下がったりして、今年、去年のような夏の暑さが繰り返さないことを祈りつつといふところなんですけれども、やっぱり温暖化とかそういった問題が日常、自分ごととして感じられるようになってきているかなといふふうに思っております。</p> <p>その中で、環境基本計画なんですけれども、環境全般についてこれからの方向性を示すということで、非常に重要な役割を果たしていると思いますので、今日の会議についても様々なご意見をいただければといふふうに思っております。今日もよろしくをお願いいたします。</p>
及川主幹	<p>委員長ありがとうございました。以降、着座にて進めさせていただきます。</p>
3 議事	
及川主幹	<p>それでは議事に入ります。議事につきましては、奥州市環境基本計画策定委員会設置要綱第4条第2項の規定によりまして、委員長に進行をお務めいただくことになっております。渋谷委員長よろしくをお願いいたします。</p>
渋谷委員長	<p>それでは今回もよろしくをお願いいたします。早速、次第にしたがって進めてまいりたいと思います。なお、議事がどうしても長くなっちゃうと思うので、適宜トイレいっていただいて結構ですし、どこかでトイレ休憩とっていきたいと思いますので、よろしくをお願いいたします。はじめに市民・事業者アンケートの結果報告と、市民ワークショップ（以下、「WS」）、庁内ワーキンググループ（以下、「WG」）について報告をお願いいたします。</p>

大内副主幹

はい、ありがとうございます。それでは1番の報告、市民事業者アンケートの結果の報告についてと、もう一つ市民WS、庁内WGにつきまして、現状についてご説明をさせていただきたいと思えます。資料の方は1ページ目となっております。はじめに市民・事業者アンケートの結果につきましてでございます。

前回、委員会の方で、「より督促のような形で回答が集まるように工夫を」ということでご意見をいただきまして、委員会終了後、11/20に改めてアンケートの送付対象者の方々に対しまして、ご回答へのご協力を求めたお手紙を送付したところでございます。

結果、表に記載のとおり回答率については前回よりアップしているということでございます。

アンケートの実施内容につきましては記載のとおりでございます。アンケートの結果につきましては先日郵便でお送りした中間報告の部分でございますけれども、改めて現在最終の文言等チェックした上で最終版というのを作っておりますので、こちら完成いたしましたら改めまして、郵送で委員の皆様にはご提供差し上げる予定としております。

続きまして2ページ目でございます。市民WSと庁内WGの状況についてご説明いたします。市民WS、本日までの間に3回開催してございます。第1回目が昨年の12/4、水沢第一高校1学年の生徒の皆様にご協力をいただきまして、地球温暖化、気候変動に関するWSをKJ法で行っております。

第2回と第3回につきましては連続開催ということでございまして、1回目が1/31(土)、2回目が先日の2/7(土)ということで、一般公募の市民でそれぞれ26名ほどということでございます。こちらにつきましても、より詳しく写真等っておりますが、現在ホームページ(以下、「HP」)を作成中でございますので、その時の様子等につきましては改めて市公式HPにアップする予定でございますので、機会がありましたらぜひご覧いただければと思います。

なお、WSで様々な形で市民あるいは高校生の皆様からいただいたアイデア、課題等の内容につきましては現在分析を行っております。こちらの分析の結果を踏まえまして計画内容に反映して参る予定としてございます。

続きまして、庁内のWGについてでございます。1/27に各課に対してワーキンググループ委員の任命を行いました。週明け月曜日に第1回目の会議を開催予定としております。WG委員をご推薦いただいた各課の名称等につきましては表のとおりとなっております。なお、生活環境課につきましては非常に計画内容と関連が深いということがございましたので、生活環境課の課内の3つの係からそれぞれ職員を出すということでお願いしているところでございます。

なお、課の選定につきましては第2回会議でちょっと触れさせていただきました他自治体、50自治体ほどとなりますが、施策、取り組みのデータベース6,700ほどの取組事項がピックアップされてございますが、こちらをGX推進室の方で分析を

	<p>行いまして、奥州市の各課の事務分掌に基づいて、他の市町村で取り上げている施策等への関わりが深いと思われる課を特に選ばせていただいたということとなっております。こちらにつきましても今後、特に市の事務事業編などの施策の検討などにおきまして、WG内で協議してまいりたいと考えているところでございます。</p> <p>説明については以上でございます。</p>
<p>渋谷委員長</p>	<p>どうもありがとうございました。ただいまのご説明について皆様方からご質問、ご意見いただきたいと思えます。挙手の上、ご発言をお願いいたします。何かありますでしょうか。ちょっと具体的な中身がわからないので、質問のしようがないかもしれないです。どうぞ、渡邊委員。</p>
<p>渡邊登委員</p>	<p>今ご説明いただいたんですけれども、内容についてはまた精査してからということなんですけれども、アンケートの結果は報告書の記述の仕方といいますかね、前もちょっとお話したところはあるんですけれども、市民の内容についての記載の仕方が市民全体と抽出市民と高校生と、それから補助金の市民ですよね、それ4つにカテゴリーされているんですけれども、そこで市民全体というのは全部足しちゃっているんですよね。足してパーセントとか出しているんですけれども、基本的に統計調査の場合にはこれ全部足すと、実際には抽出市民と補助金市民というのは母集団が一緒なんですよ。ですので、実際これそのまま足すことはできないんですよね、正確にいきますと。これ外に出るものですから、市民全体というカテゴリーは削除していただいた方が正しい統計表となりますので、そこは対応していただかないとあまりよろしくないという形になりますので、それをぜひ削除するというご願ひしたいと思います。</p>
<p>大内副主幹</p>	<p>ありがとうございます。調査報告書の中の例えば表の中に一番上に市民全体、次に抽出市民、めぐみネット補助金ってあるのを、市民全体というのを載せない方がより調査報告書としては正確な表記だろうというご指摘でよろしいでしょうか。</p>
<p>渡邊登委員</p>	<p>どちらかという、載せてはいけません。</p>
<p>大内副主幹</p>	<p>かしこまりました。そのような形でちょっと調整の方をしまして、実際に公表を行う段階ではそのあたり調整したもので行わせていただくと。一応、私どもの方で市民全体の方向性という意味では先生ご指摘の部分も留意しつつ、内部的に判断の中で、全体の合計の数値という部分をその部分については雰囲気として抑えておくのはいかがでしょうか。</p>
<p>渡邊登委員</p>	<p>基本的に市民全体を抑える際に必要なのは抽出市民だけなんです。その中で取り分け特定化したものが、めぐみネットの方々とか、あるいは補助金の方々とかの高</p>

	<p>校生ということにはなりません。とにかく、市民全体をおっしゃる場合は抽出市民で代表させるというのが基本的に調査では正しい言い方なので全体というのはすごく誤解を生じてしまう表現になります。</p>
大内副主幹	<p>分かりました。</p>
渡邊登委員	<p>実際にあまり数値変わらないですね。</p>
大内副主幹	<p>そうですね。</p>
渡邊登委員	<p>抽出市民というよりは市民でいいと思います。それでやっていただいた方が、外に出るので、それを考えますとやっぱり正しくやっていただいた方が奥州市としてはいいのではないかと思います。すみません。お願いいたします。</p>
大内副主幹	<p>ありがとうございます。それでは表とグラフの表示の方もご指摘のとおり、いわゆる、抽出市民を市民ということの取扱いで修正させていただきたいと思います。ありがとうございます。</p>
渋谷委員長	<p>はい。ありがとうございます。他にはいかがでしょうか。はい。花澤委員。</p>
花澤副委員長	<p>同じくアンケートの取扱いに関する意見なんですけれども、いただいた最終版ではないアンケートの結果報告書を見ると設問ごとに、それぞれどれが高かった低かったという形でまとめているんですけれども、そもそも最初の仮定として市民だとかこういう結果が出ると予想していたけれどもアンケートを取ってみたら実際にこうなったから今後施策としてここに力を入れていかなきゃいけないみたいのところまでを載せるのがアンケート結果だと私は思っていたので考察の部分が全く入ってなくて、ただデータを文字に表しただけのような感じがしてもう少しまとめ方を工夫していただけたらいいかなというふうに感じました。</p> <p>市民アンケートから分かること、事業者アンケートから分かること、高校生アンケートから分かることそれぞれ特徴があって、それぞれに対して我々この後どういうふうにアプローチをしていかなきゃいけないのかというところをまとめていただきたいと思います。</p>
大内副主幹	<p>ご意見ありがとうございます。ただいまの部分の分析の部分については、この調査報告書と WS、WG それぞれで出た意見を踏まえて、総合的に次の段階の計画本文、特に施策取組事項を検討する上での動機、課題の把握という部分で分析ということで、文言として出していきたいなと思っていたところでございました。</p> <p>今回、そこまでするいとまが、実はまだ WS で同時に走っておりましたので、あ</p>

花澤副委員長	<p>くまで今回は数値的な部分をグラフ的な分布の状況なので、ひとまず調査ということでお示しするというので考えておりましたので、次の段階で今ご指摘いただいた部分については留意してやっていきたいなと思っております。</p> <p>よろしくをお願いします。</p>
渋谷委員長	<p>他にはいかがでしょうか。とりあえずよろしいでしょうか。また分析結果とか細かいところで出てくるとお思いますので、それは中間的な報告ということで今回はこれで終わりたいと思います。</p> <p>続きまして本体になりますけれども、(3)の計画構成と分野別の環境像とか環境指標等について事務局からご説明をお願いいたします。</p>
大内副主幹	<p>ありがとうございます。それでは資料でいいますと、右下のスライドの番号で3ページ目以降のご説明をさせていただきたいと思います。</p> <p>はじめに(1)計画の構成ということで資料を作らせていただきました。こちら左側緑色の枠が現行の第2次計画、第3次計画(案)につきましては右側のピンク色ということでございます。こちらの方、今後計画の文言等を考えていく上で、どうしても事務局の方でこういった意図を踏まえての計画の構成をしたいということのご説明での資料ということとなります。</p> <p>簡単にではございますが、次のページをご覧くださいと思います。次のページが各計画構成におきます、条例に規定される義務的事項の掲載の確認ということでのページとなっております。こちらは、奥州市環境基本条例の方に環境基本計画においては、これらの項目を載せなければなりませんよということの決まりがございますので、それぞれの義務的な記載事項が、第3次計画の構成案におきましては、どの章に載っているかというものの確認のためのページでございます。</p> <p>続いての5ページ目と6ページ目が今回案として出させていただきました第3次計画の構成に込めた事務局のポイントでございます。</p> <p>まず①でございます。ピンク色の表と見比べながらご覧くださいと思います。第2次計画までは第1章からスタートしておりまして、その前の前章がございました。通常であれば市民憲章等を載せてもよろしいのかなという部分がございますので、こちらに、計画に込める意図、思いの部分の「はじめに」、続いて「市民憲章」、そしてアンケートの方で7割から8割強の方が知らないということで残念な結果になっておりました「ゼロカーボンシティ宣言書」についての掲載を予定してございます。</p> <p>②です。計画の背景でございます。第1章の計画の基本的事項の部分ということとなりますが、こちらの部分はできるだけコンパクトに載せたいと考えてございます。第1次から第2次計画におきましては、前計画の変遷とか、計画の背景、国内外の状況から奥州市の状況まですべて一気にまとめて、ボリュームをかなり厚く載</p>

せていったところでございますが、こちらの方、後に述べます第3章と分割を行うことで、新しい計画におきましてはコンパクトに意図が伝わるように構成を考えたところでございます。

続いてポイントでございます。分野別環境像ごとに、背景や課題を洗い出したいと考えてございます。計画背景を先ほど申し上げましたとおりコンパクト化するのと合わせまして、分野ごとに市の現況、併せて、場合によっては国内外の現況も含めてここでもう1回書かせていただきますが、課題、目標、施策、取組といった構成をまとめてしまうということ想定しているところでございます。これによりまして、様々な分野、今回一体的策定ということで一つの計画の中に含まれることとなりますが、一つのまず、興味がある、ごみならごみということでそちらを見ていただければ、全体を読まなくても市の方向性、自身が取り組むべきことなどが分かるようにしたいというところでございます。

もう一つ、分野別環境像ごとに、市民の皆様、事業者の皆様、そして市の取組や施策をワンセットで表示したいと考えてございます。今回の計画の主役は市民と事業者ということで考えてございます。市はあくまでその主役である皆様に、施策によりサポートをどうしていくかという立場で表現を考えたいと思っております。

なお、地球温暖化対策実行計画（事務事業編）が一部計画の中にありますが、こちらにつきましては市役所が自分のこととしてやらなければなりませんので、この分以外の部分ということでございます。市民、事業者、市の取組をワンセットに記載するというので、それぞれが取り組みを相互に確認しつつ、併せて、協働で取り組みをするということの意識の醸成を図っていきたいと考えていたところでございます。

続いて5つ目のポイントでございます。各分野の相互関連性に注目したトピックを新規に追加することを予定しております。今回の計画、奥州市環境基本計画ということでございますが、環境基本計画、地球温暖化対策実行計画、気候変動適用計画の一体策定となっております。これらが生み出すマルチベネフィット、相互に干渉して利益を生み出すという部分ですとか、多面的、いろんな側面から見たアプローチを可能にするように、各分野の相互関連性についての記述を一つ項目として抜き出して記載をさせていただきたいと考えております。こちら、分野別環境像ごと、様々6つの柱で構成する予定としてございますが、それぞれの関連性の特性が分かるように、文章のほかに図、アイコン、ピクトグラムとか、あるいはイラストなどを使って、できるだけ読んでいただいた方に一目で印象に残るように工夫をしてみたいと考えてございます。併せて、ウェルビーイングとか循環経済とか、そういった部分の環境目標が総合的に目指す概念につきましても、文章のほか図やアイコンなどを使って、より分かりやすく表現をして工夫をしてみたいと考えております。

最後に、前計画の進捗の分析、アンケートの全調査結果などは、まとめて資料編に掲載を予定しているところでございます。これまでは、一番最初の第2章のこ

	<p>ろで、これらが全部入っていて、ページ数をかなり稼いでいたところではございますが、読んでいて、最初の文、本題に入る前にどうも読み疲れてしまうような構成という印象を持っていらっしゃる方もいらっしゃいましたので、この部分ちょっと工夫をしまして、資料としてお伝えしたい分、調査結果、バックデータとしてお伝えしたい分につきましては、すべて資料編に掲載をしたらどうかということで考えているところでございます。これに伴いまして、資料編としてのページが非常に多くなる場合には、資料編につきましては、別冊として構成をすることも合わせて考えているところでございます。</p> <p>次に、パワーポイントのページで言いますと 7 ページでございます。計画構成中のピックアップということで、先ほど第 3 章、分野別環境像ごとに、一つ一つ話題を完結させていきたいということでの構成をより詳しく抜き書きをさせていただいたところでございます。一つの分野別環境像ごとに、こちらの構成をベースとしまして、内容の記事を、織り込んでまいりたいと考えているところでございます。</p> <p>分野別環境像ごとにその説明、現状と課題を分析しまして、それに対する施策や取組、併せて SDGs の関連の部分盛り込んだ後に、それにさらに結びつく各市民、事業者、市民団体等の取組事項のご説明を入れて、最後に市がそれをどのような形でサポートしていくか、取り組みをしていくかという表現をワンセットで考えているところでございます。一応、計画の構成の部分につきましては、ここまで一回ちょっと長くなりましたので、説明を一回区切らしていただきたいと思っております。</p>
<p>渋谷委員長</p>	<p>はい、ありがとうございます。ただいまのご説明の (1) から (3) 計画構成までについて、ご質問ご意見ありましたらお願いいたします。</p>
<p>若生委員</p>	<p>前回までの基本計画の前立ての部分を短くしてっていう部分についてはいいんじゃないかなと思います。1 回目の基本計画の時って市町村が初めて (合併で) 一つになったっていうタイミングで作ったので、それぞれのところはどこのところから始まって、どうしても、はしょれない部分があって、1 次計画が丁寧にそこがちり書いて、2 次計画もそれをずっと引き継いだ部分もありましたので、なんかその経過を経ているので、今回、そこはわかりやすく簡潔に今の状況を書いて、本編のところをコンパクトに誰でも見やすくしたいっていうのはいい視点ではないかなと思えました。アンケートを見た時に結構長すぎるとわからないっていう声がいっぱいの方からたくさんありましたので、みんなが見てわかりやすいとか手に取ってもらえるような計画を作ろうっていうのであれば、その方向性はよろしいんじゃないかなと思います。</p>
<p>渋谷委員長</p>	<p>はい、ありがとうございます。他にはどうでしょうか。ちょっと場つなぎじゃないですけど、私の方から、5 ページの市民・事業者・市の取組をワンセットにっていうのはいいんですけど、市は施策をやるっていう立場があるんですけど、サポー</p>

<p>大内副主幹</p>	<p>トする立場っていう表現ではなくて、7 ページの下の方に書いてあるんですけど、やっぱり市の施策と取組っていうのがあって、やっぱり率先実行する立場でもあるのかなって思うんですよ。まず、自ら進んで取り組みますと、かつ、市民のいろんなものをサポートしますっていう、両方いるのかなって感じがしてまして、7 ページとの整合をとるためにも、そういうふうにした方がいいかなって思いますのでいかがでしょうか。</p> <p>はい、ありがとうございます。ご指摘のとおり、当然、全て市役所は応援するだけの立場ということではないと私ども認識しておりまして、委員長にご指摘いただいたとおり、まずは市が率先してその方向性を実現して示すという部分についての施策も打って参る予定ではございますので、分野ごとの把握された課題に応じて、サポートを行うべき取組、あるいは市自身が自ら行うべき施策というのは様々な形で登場するという想定しておりましたので、ご指摘の部分、留意しながら検討してまいりたいと考えております。</p>
<p>渋谷委員長</p>	<p>はい、よろしくお願いします。</p> <p>あと、ついでに7 ページの一番上の段かな、目標とか書いてあって、例が書いてあるんですけど、あの、猛暑日の日間日数とか熱中症対策の搬送者数っていうのは、これどうしようもないもので指標にならないと思うんですよ。自分たちで何かできるっていうのだったらあれなんですけど、こういうのが、特に熱中症搬送者数って毎回大きく変動するし、今年はもしかしたら涼しいかもしれない、いろいろあるんですけど、こういうんじゃない方がいいのかなと。自分たちが何かやった結果が減るとか、増えるとかいうのを出す方がいいのかなという気がするので、例示などで注意してもらえればいいかなと思いました。</p>
<p>大内副主幹</p>	<p>はい。ありがとうございます。状態指標、成果指標、活動指標ということで、今回の計画からちょっと特別に指標の構成について検討しているところでございます。その部分につきましては、後でもう一度ご説明をさせていただく機会をいただければと思いますので、よろしくお願いします。</p>
<p>渋谷委員長</p>	<p>他にはよろしいですか。先に進んでまた戻っていただければ結構ですので。それでは(4)の方からまたご説明をお願いします。</p>
<p>大内副主幹</p>	<p>ありがとうございます。それではスライドの右下のページで申し上げますと8 ページ目以降ということでございます。(4) 分野別環境像及び環境目標についてでございます。こちらの方で、国の各計画のガイドライン、あるいは策定マニュアル、第2次計画までの奥州市の環境目標の設定状況、第2回までの委員会の委員の皆様のご発言等を全て勘案いたしまして、今回事務局案といたしまして、各分野別にお</p>

きます、スローガンに近いのですが、分野別の環境像とそれに合わせた環境目標をそれぞれ、こちらの方で案として作成させていただいてございます。

それぞれ、まずは分野別環境像でございますが、第2次計画までは「〇〇を目指すまち」といったような形ですべて語尾に「まち」が付いてございました。今回は、市民・事業者の皆様を主役とする計画であるということも含めまして、併せて決意表明に近いような言葉遣いで、というコンセプトで分野ごとの環境像について表記のとおり考えたところでございます。併せて、それぞれの環境像には主語をあえて書いてございません。主語は読んでいただいた方がそれぞれ自分ごととして捉えていただきたいというような願いも込めたところでございます。一番目で言いますと、循環型社会ということで「資源の環で持続する社会をめざす」「私」、あるいは「市」、「じゃあ自分が」というようなことを考えていただければいいかなと思います。

併せて、分野別ごとの柱に使っております（「循環型社会」であれば「環」や「社会」といった漢字や単語）漢字などを環境像には、できるだけ文章の中で織り込んだところでございます。

右側のところの環境目標につきましては現行計画との連続性を踏まえまして、割り振りをしているところでございます。地域気候変動適応の部分につきましては、全くの新規でございますので国のガイドラインに従っているところでございますが比較的こういった分野を抑えておくことは必ず必要だろうというところでございます。

例えば、循環型社会につきましては第2回委員会で、渡邊委員の方からそのごみという言葉についてというご指摘をいただいたことでありますとかWSの中で市民の中からごみという言葉が消えるぐらいの意気込みでやってほしいというようなご意見をいただいたというところでございましたので、これまでは、ごみの減量化というような目標であった部分について、それをひっくり返しまして、リサイクルの最大化及び不法投棄等への対応に関しますごみの適正処理ということでそのごみに対する意識が変わるような目標付けというものを考えたところでございます。

続いて、もう一つだけ特徴的な部分で自然共生の中に4つあるうちの右下、環境保全型農業の推進ということで書かせていただいております。奥州市の基幹産業であります農業につきましては、自然資本の消費も含めまして非常にこの分野において関わりが深いというふうな位置づけを考えてございます。なので、通常の、大気、森林、河川、あるいは生物多様性ということの他に、それぞれに関わる分ということで非常に大きい要素を占める農業について第2次計画から引き続きまして環境保全型農業の推進ということで環境目標の一つとして特出しをさせていただいております。

それ以外につきましては、一番下、環境人材の右側、環境ネットワークによる共進化の部分でございます。こちら、「経済、社会、その他インフラ、そして環境に対する人々と共に進化していきましょう」ということで国の環境基本計画の中で一つのスローガンとして述べられておりますこの言葉を取り込むことで国の方向性に沿っ

	<p>た計画の一部分ということで「共進化」ということで載せさせていただいたところ でございます。</p> <p>以降の9ページから36ページまでは各分野のそれぞれの現状の背景について、主 に基礎調査とアンケートからの結果などを基に書いてあるところでございます。そ ちらの全部説明を申し上げると時間がかかってしまいますので、こちらにつきまし ては適宜ご確認いただければと思います。(4)の説明については以上でございます。</p>
渋谷委員長	<p>はい、ありがとうございます。環境像と環境目標ですけれども、様々なご意見 あるんじゃないかと思imasので、ご質問、ご意見をいただきたいと思imas。よ ろしくお願imasします。はい、花澤委員。</p>
花澤副委員長	<p>この分野別環境像はこれを決定として進めていくというイメージでしょうか。</p>
大内副主幹	<p>事務局案として、一応方向性を前回の委員会の中で、目標だけではなくて、それ を1つにまとめる方向性というご意見がありましたので、環境像の雰囲気という か、そういうのが分かるように考えたところでございます。</p> <p>実際にこれから具体的な個別の細かい課題とか、取組を選別して積み立てていく 中で合わないようであれば、そちらについては当然まだ変える余地が十分にあるの ではないかと考えていますが、現段階では事務局案としては自信を持って出してい るところであります。</p>
花澤副委員長	<p>仮ってことですね。</p>
渋谷委員長	<p>どんどん意見言っていた方がよいと思imasよ。ここ直した方がいいじゃ ないとか。</p>
花澤副委員長	<p>例えば生活環境とか、「一人一人の取組で～」とかというのは、全部一人一人だっ たり、関わってくるのでわざわざ載せる必要もないと思imasし、循環型社会も資 源の環で持続する、響きはかっこいいですけど、ぱっとイメージが湧かないような ところもあったりとかするので、文言については、追々最後の方にまとめるのにし ても、とりあえずこういうイメージでというような印象で大丈夫なんですよね。</p>
大内副主幹	<p>はい、ありがとうございます。後からまだ変えるということではそのとおり大丈 夫ですので、逆に言うとそのあたりは具体的なご提案としていただいた方が事務局 としては助かります。</p> <p>生活環境の一人一人のという部分でございますが、日々生活環境課の担当として 住民お一人お一人から様々な生活苦情を受けている中で、結局それぞれの問題を解 きほぐしていくと、それぞれ一人一人がここに関しては自覚を持って取り組むとい</p>

	<p>うことを印象として持っておりましたので、この部分に関しては特に「一人一人の」ということで付けさせていただきました。一人一人の生活空間で生まれてくる問題が多いのかなという印象があったものです。それ以外についてもそのとおりちょっとかっこよくなればいいかなというのはありましたけれども、具体的に、今後、議論が煮詰まっていく中でいろんな言葉とかフレーズをご提案いただければ、それぞれありがたいと思っております。</p>
花澤副委員長	<p>はい、ありがとうございます。</p>
渋谷委員長	<p>積極的に修正案じゃないですけど、こうした方がいいんじゃないかというのを出示していただいた方がいいと思います。他にはいかがでしょうか。</p>
渡邊登委員	<p>これ6つあって、その6つって結構いろいろとつながるものですよ。すみません、最初にまず個別なんですけれども、例えば循環型社会でいうと、この「ごみの適正処理」ってありますよね。WSでもごみではなく資源だという話もありましたけれども、適正処理で終わっていいのかというのが、それがすごく引っかかかっていて、だから例えばごみって言っても、食料品のごみ、フードロスの問題もありますし、それをどう活用して、例えばここでいうと地球温暖化の方、いわゆるエネルギーを生み出すようなものとしてつなげていくのかとか、そういうエネルギーでいうと、もちろん地球温暖化、循環型社会のところと地球温暖化というのが結びついていくと。そういうなんか、なんて言うんでしょうかね、そこらへんを一つ一つ盛り込んでいってもいいのかなという気はして、最初に戻りますと適正処理だけではもう一歩先、だから例えば食料品でいうとごみも含めて「残さ」等々でいうと、バイオガスとかね、いろいろあるじゃないですか。あるいは、今もうすでにやられていることだと思いますけれども、肥料化するとかそういうので考えると、適正処理というのをもっと一歩先に行くような、その言葉どういう言葉なのかというのはなかなかスパッと出でこないんですけれども、活用じゃなんかちょっと今一つなんですよ。ごみの適正処理、活用っていうとなんかまだ弱いというか、とにかくもう一つ一歩こう、温暖化とか脱炭素とか循環型社会に向けてプラスの方向といいますかね、それに寄与するような、未来を楽しめるような、そういう言い方が出てくればいいかなってというのは、ただ、じゃあキャッチフレーズなんだっていうとそこまで至りませんでした。そこはちょっと皆さんに考えていただければなというふうに思いました。以上です。</p>
渋谷委員長	<p>はい、ありがとうございます。</p>
大内副主幹	<p>一回いいですか。</p>

渋谷委員長	<p>お願いします。</p>
大内副主幹	<p>はい、ありがとうございます。この部分は、前回の渡邊委員のご意見も踏まえて非常に悩んだところでした。この分野で、食ロスとか、そもそもごみでないようにするという部分を第一番に持ってくるべきだということだったので、リサイクルの最大化、その上で、それでも廃棄物として捨てるを得ないという部分で、少し不法投棄とかのものをやはり抱えてございますので、その分は、ここに入れざるを得ないというのが一つあったというのが事務局の頭の中の状況でございます。</p> <p>もう一つご指摘のありました分野の柱を越えた関連性、そこに注目することで多面的なアプローチが可能になるということは非常に認識強く持っておりましたので、その部分については、まず一つ一つの分野別の柱の課題や現状、取組をまず一つは並べた他に、先ほどちょっと触れさせていただきました、それをまたがるような、施策、取組を特出しして、これを一つやることで、二つ、三つの分野に多面的にワンアクションでたくさんのもを叶えられる可能性があるというような一つ特集を、計画書の中で表現したいなという部分をちょっと準備しておりましたので、そういったところと兼ね合わせて見るということはどうかと思っていたところでございます。</p>
渡邊登委員	<p>はい、ありがとうございました。最終章にそこら辺をぶちこむという形ですかね。つまり、6つっていうのはすべてつながっているわけですね。それをどう有機的に本計画では結びつけて実行を目指すのかという形で終わると一番いいかなと思うんですけどね。</p>
大内副主幹	<p>実は今回の計画構成の一部で、その相互関連性についての表現について、私の中で参考としておりましたのが、世田谷区の2025年か2024年に策定された新しい環境基本計画の中で、分野横断的な取り組みという特集ページが実は用意してございまして、アイコン、あるいはイラストなどを多用して、一つのもがどういうふうに関わり合っているかというのを非常に駆使されて表現されているなというのがありましたので、ちょっと今その資料としては準備していないところではございますが、そのあたりはお読みになった方（かた）がより効果的に、そのいろんな取組の意欲につながるような表現になるようにちょっと工夫は考えてまいりたいというところでございます。</p>
渋谷委員長	<p>はい、ありがとうございます。佐々木委員さん。</p>
佐々木委員	<p>私もごみの適正処理という言葉はどう考えたらいいのかなというところに関する事なんですが、一般にごみの括り全体を考えますと、ごみ、本当に最終的に燃</p>

やす、処分するというごみと、ごみを再度資源として使えるもの、資源になるものという分け方があると思うんです。それを全てごみという呼び方にしているのが、この言葉なのかなというふうに感じます。

我が家では、今日もごみ出しの日だったんですけども、ごみ袋に入れる本当のごみと、プリンだとか洗えばプラスチックのようなものを再利用できるという、リサイクルする資源物という認識でごみとリサイクルできるものを分けて、それぞれの日に出しています。そういったふうな認識であって、ごみそのものを、その中に本当のごみとリサイクルできるものが一緒なんだよというのが、なんかこう曖昧というか、判断がよくできなくなる原因なんじゃないのかなというふうに思います。ですので、ここで言っているごみの適正処理というのは、割とリサイクルできる寄り方の資源物になるのかなというふうに思うんですけども、そういったふうに最終処分するものを本当のごみと呼び、再利用できるリサイクルの最大化による方を資源物、資源になるもの、ですので、そこのごみの括りを分けるという言い方も適切なものかどうかかわからないですけども、リサイクルできる資源になるものは資源物という呼び方に分けた方が分かるんじゃないのかなというふうな認識で私はいろんな活動をしていますけれども、いかがでしょうか。

大内副主幹

はい、ありがとうございます。環境目標はあくまで目標なので、かなり短いフレーズで書かざるを得ません。環境目標の中、次に説明文が必ず入るんですが、その中でこの計画書における「ごみ」という言葉が指し示す定義のようなものを加えることで、今の佐々木委員がおっしゃっていたような、ごみというものをどう市は捉えるべきなのか、市民はどう捉えるべきなのかということを見直せるような文章をここに差し込むのはいかがかなと思ったところでございます。計画書の中でごみというこの2文字を登場させないわけには何とも無理で、トライはしてみたんですが、どうしてもごみという言葉は今の段階で必要なので、それに対してこれから10年間の中で市民や事業者等、あるいは市がごみというものをどういうふうな位置づけ、どういう内容のものとして定義していくかという部分を、せっかくなので一つ見直して文章化するのもありかなと思っていました。

若生委員

今のごみの適正処理にまた関わることなんですが、若生家に嫁いで30数年、おじいちゃん、おばあちゃんが商店やっていた時の倉庫の片付けを今年やりました。本当はその時だったらこれは使えるものになっていたはずのものが、何十年も放置するとごみにしかならないという現状をまず見ました。「いや無理、これはもう誰もできない、やだやだ誰が手つける」と思っていたのが、実際分けてみたらまだ使いたい人に譲れるものと、本当のごみと、何か次に役立ちそうなものに分けることができました。それが今ほやほやのごみと何十年も経ったごみの認識の違いで、リサイクルしましょう、資源に出しましょうという時に綺麗な状態で出せばリサイクルできるのに、「後で後で」って置いておくとそこに虫が入り、カビが生え、資源化

	<p>できなくなるとか、ごみって結構深掘りすると面白いなというのと、無理とってかたまりを分解すると何とかなるっていう体験を、もっとみんなと一緒にしてもいいんじゃないかなという思いがあったんです。だから今これでいいのかという議論になってますが、ごみの適正処理っていうのは結構面白い方向からいろいろ考えられるんじゃないかなと。</p> <p>例えば空き家のこともここに近いことがあって、もう手が付けられなくなった状態でどうしようってなると大変なんだけど、そうなる前に、ごみ、空き家になる前になんとかできればいいよねっていうのが、この前の WS だったりアンケートからもちょっと見えたりする部分もあるので、適正処理っていう一言でくくるにはどうかなってご意見はもっともなんですけど、それぞれの行き場がちゃんと見つかったら、困ってたものがそうじゃなくなる可能性もあるし、そうならないようにするには私たちはいつ何をどうすればいいのかなって考えてもらうきっかけには大いなるんじゃないかなと思います。</p>
<p>渋谷委員長</p>	<p>はい、ありがとうございます。はい、お願いします。</p>
<p>大内副主幹</p>	<p>はい、ありがとうございます。「そのとおり」と今感じたのが、適正処理の中身が最終処分場に埋めることだけではないっていうイメージは事務局の方で実は持っていたところがございます。分別あるいは捨てるべきところに、やむを得ず捨てるのであれば、捨てるべきところと方法を選んで適正に捨てるということもあるんですが、若生委員がおっしゃったとおり、場合によっては、ごみになるというレッテルをその（処理の）方法によって外すことができるものも含まれているということは、リサイクルの最大化と合わせて考えていくことによって、それも取組の表現としては可能かなというところを、今イメージを持ったところではございました。なので、検討を進めていく上で、適正処理の中身、この書き方についてもちょっと検討はしていく必要があるなと思ったところがございます。</p>
<p>渋谷委員長</p>	<p>はい、ありがとうございます。他にはいかがでしょうか。はい、お願いします。</p>
<p>住吉委員</p>	<p>8 ページなんですけれども、まず確認でこの分野別環境像及び環境目標は、これを行うことによってこの別紙資料にある目指すべき環境像の「未来を見つめる 100 年循環都市、地球と共存する奥州」を達成するための項目って考えてよろしいですか。まず一つなんですけど。</p>
<p>大内副主幹</p>	<p>はい、ありがとうございます。別紙資料については、この後、触れる予定でございましたが、こちらの 1 ページ目の下のところ、「第 2 章 目指すべき環境像」のところに、すでに第 2 次計画の「未来を見つめる 100 年循環都市、地球と共存する奥州」ということでありますが、これはあくまで第 2 次計画でいうところの概念とい</p>

<p>住吉委員</p>	<p>うことで、第3次計画におきましては、これらの議論が整った後に、最後に一番大きいこの概念について考える予定としておりましたので、あくまでこれは第2次計画でこの概念でしたよという位置づけのご説明でございます。</p> <p>ごめんなさい。第3次計画の目標、概念みたいなのはこれから作成するけど、先にこの6項目を立てるっていうのは、そこから積み上げていくイメージということでよろしかったですか。</p> <p>結構会社でもいろんな資料を作る中でいうと、これを達成するための何項目みたいなところに言葉が入っていくと、やっぱり結構分かりづらくなっていうのが出てくるので、先ほど少しお話にあったアイコンとか使ったという話があったと思うんですけども、そういうことを含めてなんですけども、優先順位とか見せ方という、例えばSDGsのウェディングケーキモデルみたいな環境があって社会があって経済があるよ、環境目標策定委員会で環境のことが多いんですけども、これで6項目分けてみると環境のことがあって社会のことがあったりして、環境があって社会があって経済、いわゆる市民と事業者のためということからすると、そこを分かりやすく見せるようなビジュアルがあったら、特に環境問題って私も事業として取り組んでいる中でいうとなかなか市民とか、あとはあまり興味を示さない事業者の方も多いなという印象があるので、そこを興味が湧くような、ワクワクするようなビジュアルがあったりする、こういうふうやっていくと最終的には持続可能な奥州市になるんだなということ、だから僕らはここに参加したらこういうことができるんじゃないかなということが分かるようなビジュアルにさせていただけるのかなと思った次第なのが一つと、市民と事業者、言葉で言うと市民と事業者なんですけど、市民の捉え方、立ち位置と事業者の立ち位置はやっぱり全然違うと思うので、日々分別してごみを、ごみから資源を分けようとか、市民生活の部分と、あとは事業者で運営していくものとは少し毛色が違うところがあると思うので、そこも何か分かりやすい形、イメージはあまり湧いてないんですけども、だからそこもいわゆる参加してもらって、その目標を実現するのに近づけるような見せ方をさせていただけるとありがたいなと思いました。</p>
<p>大内副主幹</p>	<p>ありがとうございます。今まさにご指摘いただいた部分につきましては、全体的な概念を、新しい計画で言いますと、第2章のところ全体像を、それこそウェディングケーキモデルとか、SDGsなどのアイコンの機能を活用しながらご説明するという案の一つを持っていたところでございます。併せて、市民と事業者、そして市の各施策の関わり具合につきましては、こちらも参考にしていた他市の計画が実はあったところございまして、兵庫県の川西市の環境基本計画で同じような形で一目瞭然で、一つの目標に向かってみんながどう取り組むかというのを表現としてやっていたところもあります。それらの良いとこ取りではないんですが、SDGsのアイコンが持つ機能とウェディングケーキモデルのような形式化された概念とか、</p>

<p>若生委員</p>	<p>そういったものを多用しながら、より分かりやすく、直感的にまず見えるようにしないとダメだということは考えているところではございましたので、そのあたりをこれから一つ一つの章の中の構成とか、アイコンに持たせる機能などを勘案しながらちょっと検討してまいりたいと、今お聞きしてと思ったところでございます。</p> <p>これをもっと分かりやすく楽しくなったらいいなと思うんですけど、これって言っても見えないな、第2回の計画策定委員会の意見反映版っていうので、「このことってこういうこと」っていう言葉がたくさん散りばめられていて、今ちょっとそれがまだ混ざっている感じではないんだけど、今言った、例えば「ごみのことも違う方につながるよね」、とか、「空き家のこともここにつながるよね」、とか「こういうことするとこことつながるよね」って、そこが例えば線が手をつないでいる感じとか、こういう感じで描けたらちょっと楽しいなと思うんですけどっていう意見でした。</p>
<p>大内副主幹</p>	<p>はい、事務局で一生懸命作りました資料を気に入っていただきまして大変ありがとうございます。その内側の輪っかは、各計画の分野などを表現していたりして、機能は仮にということで頭の中にあったものを、とりあえず表現として落とし込んだものになります。おっしゃるとおり、様々な形で今回のいろんな概念とか、分野ごとの関係性とか、協働ということでいろんな立場の方々が取り組みに関わっていらっしゃるというシーンを、どういうふうにしたら1ページであるいは一つの図で表現できるかというところは悩みどころでもあり、これからあと半年程度の中で考えていくということで想定しておりましたので、もし、花澤委員も含めてご意見とか、アイデアがあるようであれば、ぜひご協力をいただきまして、より市民の皆様にはわかりやすい計画書になるように一緒に作らせていただければなと思ったところでございます。</p>
<p>渋谷委員長</p>	<p>ありがとうございます。他にはありますか。はい、花澤さん。</p>
<p>花澤副委員長</p>	<p>先ほど住吉さんがお話しした部分でちょっと補足したいんですけども、多分、環境基本計画って我々環境に関わる者からしたら、例えば空き家は生活環境のところにあるな、とかってわかると思うんですけど、市民が「ちょっと空き家なんかできなかな」って思って環境基本計画にたどり着けるかどうかは別として、たどり着いたときに、じゃあどこを見たら自分がやる役目が載ってるかとか、取り組みが載ってるかとか、っていうのがぱっと見てわからないと思うので、その辺は前段の第2章とか、そっちの方で例えば家庭の生活であったり、事業所の普段の事業活動であったりの中で関係するものがこの計画のどこに結びついてるかっていうのをわかりやすいようなイラストか何かで示せばいいのかなというふうには感じました。以上です。</p>

<p>渋谷委員長</p>	<p>ありがとうございます。他にはいかがですか。</p>
<p>大内副主幹</p>	<p>はい、ありがとうございます。計画書自体は、一応、行政計画の計画書ということになるので、配置とか構成は一定程度のセオリーに従わざるを得ない部分があると思います。その中でも、ある一部分、今おっしゃられた部分、ウェルビーイングとか、大きな概念との関連性も含めて必ずその表現を文章ではなくて、できればイラスト図式でやりたいというところを持っておりますので、その辺りについては、おっしゃるとおり検討を進めてまいりたいと思いますし、併せて、概要版とか、デフォルメ版ということで、見ていただくターゲットをより絞った形で、低年齢層とか、絞った形でお伝えする層に合わせた小さいページの計画書のデフォルメ版なんかを作るといふ際にも、そういった形で抜き出して、併せた形でより読みやすくというような工夫もありなのかなというふうに思っているところでございます。以上です。</p>
<p>渋谷委員長</p>	<p>他にはいかがですか。</p>
<p>若生委員</p>	<p>今に関連してですけど、2次計画の時にも簡単で、誰にも手に取ってもらえる計画の簡易版を作ったけど、なかなか誰の手にも取ってもらえなかったという寂しいことがあって、今だとQRコードとか、読み込んで必要なところを見れるという機能やそれを使える能力も高まっているので、紙ベースとかHPからじゃなくて、もっと気軽に、「あれなんだっけ」これって検索できる方法をこの計画の中にちょっと盛り込んで、計画だけじゃなくて暮らしている中で何か調べたいときにたどり着けるような何かを考えてほしいなと思います。</p>
<p>大内副主幹</p>	<p>はい、ありがとうございます。デジタルといいますか、DXの部分についても、計画書に文章やイラストとして記載する以上の機能を一冊の中に加えることができるということでのご意見かと思ってお聞きしておりました。それについては、例えば循環型社会分野の中に市の方で作成している分別のアプリへのショートカットですとか、あるいはアップロードしている分別の検索の一覧表とか、そういったのがちょっとしてあることで、日常的にはお使いいただけるような計画書というのもありかなというイメージを今の段階で持りましたので、今後進めていく中で、紙面の量、記載の中身、バランス等も含めて考えながら、ちょっとそこは検討するということでお答えさせていただきたいと思います。</p>
<p>渋谷委員長</p>	<p>ありがとうございます。他にもありますか。それでは私の方からよろしいですか。少し本質的な話になっちゃって申し訳ないんですけど、この枠組みというか、分野別にいきなり入ってきて横断的な取組を後で述べるというお話があったんですけど</p>

ど、これは国の環境基本計画で言えば第五次くらいまではこういう構成だった。第六次になるとこの分野別というのがほぼなくなるんです。なぜかという、すべてが全部結びついているので分割できないという考え方が出てきているんです。施策を立てるときにはこういう分け方しないと立てられないんですけど、例えば温暖化によって生物多様性が影響を受けてくるということもありますし、相互に関連してくるんですよ。ごみを持つと温暖化するとか、全部関係しちゃっているんで統合した概念になって第六次環境基本計画というのは国が作っている。それに基づいて県も横断的というんじゃなくて、そもそもさっき住吉委員がおっしゃっていた経済、社会、環境、この3つがやっぱり関係していて、環境だけではない、経済も影響してくるし、自分たちの暮らしも影響するというような、SDGs の考え方もあるんですけど、統合的な考え方が出てきていて、頭にそういう概念を乗っけるんですね。横断的とか串刺しとかいうのかな、そもそも相互につながっているという話を先に持ってくるんです。でも施策としてはこういうふうに分けないと分解できないので分けるんだけど、全部「一緒くた」なんですよという考え方が出てくるので、そういう意味ではちょっとこれ一個前の計画の枠組みになっちゃっているんですね。もうちょっと国のあるいは県でもいいんですけど、基本計画の枠組みの考え方とか、本質的なところをもうちょっとちゃんと取り込まなきゃいけないのかなという気がします。最後に横断的な施策というのもちょうと違うのかなという気がする、やはり先ほど住吉委員がおっしゃっていたように、会社の人たちとか事業者の人たちは経済との関係を考えるわけですよ。環境を良くすることによって経済も良くなる。あるいは、環境が悪くなると経済も悪くなっちゃうというような経済との関係性とか、そういうものをかなり国の計画では取り込んでいる。経済界の人たちもある程度納得できるというか、そういう枠組みになってきているので、少し個別具体の話を、施策分解はこれでいいんですけど、その前に環境像があって、それを達成するためにはどういう目標があるというのは、様々な取り組みが全部複合して、その複雑な社会の中で動いているということを書いてから個別に入っていくというような流れを作らないと、前と同じになっちゃう。一歩遅れちゃうというか、そういうことになっちゃうのかなというふうに思います。

それから個別の話で8ページの先ほど循環型社会の話であったんですけど、リサイクルは順番からいうと下の方なんです。何が一番大事かという、ごみにしないというところから始まらないといけない。リデュース、リユース、リサイクルという順番です。リサイクルを最大化したってごみの量が多ければどうしようもない。まず減量するというのが一番大事で、そういう基本的なところを踏まえながら、リサイクル最大化するのはいいですよ、でもそれは方法としてはまず下の方がごみにしないように物を作っていくとか、そういうところから出発しないといけないということです。

あと、自然との調和のところには大気保全って書いてあるんですけど、これは多分環境リスクの方に入ってきてっちゃうので、大気汚染とかそういう問題だと思うんです

	<p>けど、脱炭素エネルギーに関して脱炭素エネルギーって何だか皆さんご存知ですか。わざわざ言い換えて再生可能エネルギーって前で使ってたところを脱炭素エネルギーって書いてあるんですけど、何だか分かりますか。脱炭素エネルギーって再生可能エネルギーもあるんですけど、原子力とかが入ってくるんですよ。総体として再生可能エネルギーその他のエネルギーも入って脱炭素エネルギーって言うってこととか、先行してるっていう部分もあるんですけど、まず、国というか、世界の動きに合わせる、追随しなきゃいけないんですけど、ちょっと遅れてるかなっていう感じの建付けになっちゃってるということですね。その中でも新しいものが入ってるんですけど、気候変動とか新しい概念なのでこれを入れるのはすごくいいかなと思うんですけど、もう少し複合した社会であるっていうこと、それから相互に関係あること、それから経済とか社会全般に環境は影響する、相互に関係しているっていうことをちゃんと述べた上で各論に入るという必要があるかなと思ってます。とりあえず細かいところはあれなんですけど、以上です。何かあるでしょうか。</p>
<p>渡邊登委員</p>	<p>今ご発言があったんですけども、脱炭素電源の中に原子力を入れるっていうのは、それはそんな考えではなくて、例えば IAEA なんかでいうと基本的に 2030 年、2050 年を踏まえると、主力電源は再エネなんですよ。原子力に関して言うと原子力がサポートって書いてあるんですよ。だからそれを新たなものとして、ここから先んじているという考え方ではなくて、すごいそれは世界中の中で攻め合いをしているわけですよ。脱炭素、あるいは低炭素っていう言い方もしたりすることもありますけれども、脱炭素に関して、原子力を入れるっていうのは、それはいろんな考え方があるので、それをあえてこの地域の中で入れるっていうのは、入れないと言えるかどうか分かりませんが、あまり得策ではないというか、やっぱりそこらへんはかなり慎重になった方がいいのではないかと、つまり今せめぎあいをしていますし、それについては、私はせめぎあいしているものについて一方を取ることではないですけども、国はそう言っていますけれども、世界的な流れでいうとやっぱり今いろいろとせめぎあいをしているので、やっぱりそれは慎重になった方がいいのではないかなというふうには私は思います。</p>
<p>渋谷委員長</p>	<p>ありがとうございます。はい、お願いします。</p>
<p>大内副主幹</p>	<p>はい、ありがとうございます。最初に、脱炭素エネルギーの部分の方からでございます。こちらについては、先日国の政府実行計画の改定が行われまして、国の目標の中で 2030 年までに政府の機関が調達する電力の 60%を再生可能エネルギー、2040 年までに脱炭素電源由来の電力を 80%という目標が掲げられておりました。今回の計画が、2036 年度までの計画ということでございましたので、さてこの再生可能エネルギーだけでいいのかという部分で脱炭素エネルギーというふうにかかせ</p>

ていただいたところでございますが、そのとおり原子力の取り扱いについては、そこまではこちらが意図したところではございませんので、場合によってはこちらの部分を再生可能エネルギーの利用を推進というふうにすること自体では問題ないと思います。

一方で、通常、市役所等も含めて、電力会社から買っている電力の中に、東北電力の方で原発が稼働すれば、一部分はどうしても原発という部分が入ってくると思いますが、あくまで今回の計画においては、その部分についてはそういう視点では見てはおりませんでしたので、誤解を招くようであれば、環境目標の地球温暖化の分野別環境像の脱炭素エネルギーという部分を、再生可能エネルギーということに変えるということでも事務局は問題ないかなというふうに思っているところでございます。

一つ話戻りまして、委員長の方からご指摘がありました、国の第六次環境基本計画につきまして、一応、私の方でもこのイメージを持った形で、構成の方も一つ考えたところではございます。ただ、国の方では、前段のところ、まずは持ってウェルビーイングとか、循環共生型社会、その他環境収容力が様々な現在の環境分野で世界で駆け巡っている言葉についての説明を丁寧にかなりのペースを割いた上で、個別の事業について触れているというふうな形を取っているというところは、私の方でも把握しておりましたので、計画の基本的事項、その計画の背景、世界や国内の動向等でありますとか、第2章の目指すべき環境像に関する説明の中において、ウェルビーイングと、そういった今委員長の方でおっしゃっていただきました、当然背景とするべき基礎的な部分についてはしっかり説明をさせていただくという予定ではおりました。

その後第3章として分野別の分けた形で、個別の項目に入っていくということでの建付けの方、私の方でもイメージしておりました。ちょっと説明の方が足りなかったようでございました。以上です。

渋谷委員長

はい。今の説明はまだ本質を理解していないかなというところだと思います。国の方では、第五次までは循環型社会と、それから自然共生社会と脱炭素社会という3つの社会を組んで、こういうふうに分けたんだけど、第六次はなくしちゃってるんです。そういう世界は全部一緒になるということで、県もだいぶ苦労したんですけど、その中で出てきたのが、さっき住吉委員がおっしゃった、経済、社会、環境の3つを統合的にやらなきゃいけないという考え方が出てきていて、環境だけではないということちゃんと言わないと、やっぱり他の人たちに理解してもらえなくなっているということ、もう少しよく方向性というのかな、そういうのを考えていただければなというふうに思います。総合的な取組のやっていくところでも指標とかそういったものを作っていく必要があるんで、パーツの議論をいくらやっても繋がりが分からないので、やっぱり羅列になっちゃうんですね。

最後、分解するとこうなるというのは分かりやすいんですけど、つながりが分解

<p>大内副主幹</p>	<p>した途端に分からなくなっちゃうというところが、限界があるので、そこら辺をうまく結びつけるような構成にしてもらえればなという気がしています。多分他の町の環境基本計画とかはちょっと前のやつじゃないかなと思うんですよね。枠組みとかがいいんですけど、新しくなったやつを見ないと全体が見えなくなったかなという気がするので、もう少し勉強してほしいという気がします。</p> <p>ありがとうございます。私の方で確認させていただいた 50 自治体については、2024 年度以降に策定されたものを参考とさせていただいたものでございましたので、現状ではおそらく多分新しめだと思ってはいます。委員長のおっしゃる経済とか社会との関連性についてということも、その先にウェルビーイングの実現ということがあるものというふうに私の方では捉えていたところでございます。現状では、あくまで構成ということでお示ししておりますので、その中に記載する文章についてはまだ検討の途中ではありますので、どこにも出ていないところではありますが、いずれ第六次環境基本計画についてはもう一度読み直した上で、文章の反映とか検討については工夫をしてみたいなと思います。</p> <p>一応確認ですが、構成自体は国の構成、すみません、何回も繰り返して申し訳ないですが、分量についてはまだ具体的に文章を作っていないのであれなんですけれども、国の環境基本計画の第 1 章で環境、経済、社会の現状と課題認識ということで、この辺りで結びつけが行われていると思いますが、その辺りについては現在の構成案の中でも触れていくことが可能ではないかなというふうに思っていたところでございます。分量については国ほど詳細な分析とかに分量を取ることは難しいかもしれないんですけども、いずれ第六次計画を当然参考にはしていたところでございますが、改めて読んでみて文書の中に落とし込んでいきたいなと考えたところでございます。</p>
<p>渋谷委員長</p>	<p>私が言っているのは文章の中でということもあるんですけど、分野別に入る前に総合的な考え方を示す必要があるというふうに言っていることです。そこをいきなり分野別に入っちゃうので、そうではないようにしてほしいというふうに。</p>
<p>大内副主幹</p>	<p>わかりました。第 2 章の目指すべき環境像がいわゆる国の一番トップに出している、奥州市でいうと大きい概念という部分についての説明になりますので、この部分で先生のご指摘いただいたところを盛り込んでいくと、お考えに沿った形になりそうだなというふうに今イメージできましたので、ここをちょっと考えてまいりたいと思います。</p>
<p>渋谷委員長</p>	<p>よろしくをお願いします。他にはいかがですかね。このキャッチフレーズなんかもご意見とかいただいた方がいいですよ。これ結構良いと思ってるんですけど。</p>

大内副主幹	<p>分野別環境像のキャッチフレーズにつきましては、もうちょっと中身を多分委員の皆様にお見せした上で、この場ではなくて、もうちょっと中身の方を事務局の方から後ほどお示しした後に、ご意見いただく機会を設けてまいりたいと思いますので、今日ではなくてよろしいかと思えます。</p>
渋谷委員長	<p>はい、わかりました。ありがとうございます。他にはいかがでしょうか。はい、若生委員。</p>
若生委員	<p>それぞれの方を対象にとったアンケートの自由表記のところを読んでみたときに感じたことだったんですけど、結構それぞれに思っていることがいろいろで、割と「市がやってくれないかな」って、「誰がこれはやっていくの」って思ったときに、私のこととは思っていない人がいっぱいいるんだなっていうのがまず一つと、あとは補助金申請をした方たちに、その後、「暮らしどうなりましたか、快適になりましたか」というところにいっぱい丸が付いていたり、やった効果はとてもよく実感しているというのがアンケートを取ってみて読んでみて分かったというのと、いろいろ計画を通して「みんなどうする」って言うていく部分と、市の施策としてこういうことをすると結果「やります」って手を挙げた人が取り組んで環境がいい方向に向かったなということと、両面あるんだなというのがアンケートの表記を見ていると読めたところがありました。その辺のところを、さっきから市民とか事業者が取り組むことと市の施策という話も出てきた部分、非常に何か参考になる部分があるなと思えました。事業者の方の今時点でのご意見は、やや本体を回すのに一杯で、環境が大事とは思いますが手がかけれないんだよねっていうお声がたくさんあったのをさっき住吉さんのご意見と重なる部分なんですけども、実は環境のことをやっていると事業本体にも良いことがありますよというのが伝わっていくように、表すにはどうしたらいいのかなとか、結構出てた辛口な意見とか、ダメ出しの中に何とか考えるヒントもちょっとあるなと思いつつ見ました。さらに難題をぶち込んでも申し訳ないですが、その辺りも上手く、計画を作るときに盛り込めればありがたいなと思えました。</p>
大内副主幹	<p>ありがとうございます。ESG といったような概念も含めて、本来経営を行う上で人的資本とか、その他インフラとかと併せて自然資本などの消費についても最近スポットライトが当たっているかのような報道が見えているところがございます。そのあたりも、施策としてどのように表現、つなぐような施策を打てるのかどうかとか、これまでに補助金等実施の際に検討していたところではありますが、そういった視点をもうちょっと広げた形で、計画の中で結びつき、切っても切れない部分があるということについては、分かっていたらいいかなという工夫を検討すればよろしいかなということで考えたところがございます。</p>

<p>渋谷委員長</p>	<p>例えば事業者さんの場合だと、省エネ診断というのがありますよね。あれはどっちかというエネルギーの無駄を削いで、今、中小企業の皆さんは電気代も高くなって水道代とか光熱水費が高くなったり、経営も厳しい中で省エネ診断をすることによって無駄なエネルギーを使わなくなる、経済的に良くなるっていうことがあるんですけど、結果として、エネルギーを削減することになっているので環境に役に立つ。その意味では、例えば施策として省エネ診断とか、一例ですけど、環境対策をやることによって経済的にもメリットが生まれるというようなイメージを出していかないと、多分、事業者さんには響かないのかなという気がしますよね。多分、厳しい意見が出てきたのはその辺かなという気がするんですけど、いろんな施策の中で環境施策でも経済的にも良くなるんだという示し方とか、そういうのを出していくことによってご理解いただけるような道が出てくるのかなという気はするんですけども、住吉委員さんはどんな感じですかね。</p>
<p>住吉委員</p>	<p>そうですね。どっちが先かはあると思うんですけど、コストダウンにつながるということ自体はものすごく事業者にとっては良いことになるので、それ自体が、今、委員長おっしゃったように環境価値にもつながっているんだよというところがきっかけにはすごくなるかなと思います。あとはそこから興味を持っていただきつつ、今どこかの国でしたっけ、Scope 3まで脱炭素が求められているというところがあるので、お客様にでもやはり脱炭素に取り組んでいないとお仕事もらえないんだみたいな、だから SBT 認定※取っているんだという会社もあったりするので、そういうところから興味を持ってもらいつつ、少しずつ広げていくという。まずはご相談、自分たちに経営上いいことにつながるように、それって環境価値につながっていく、それがどんどん広がっていくと自分たちの事業も広がっていくという、そういうストーリー性が見えていくような打ち出し方ができるといいのかなと思いました。</p> <p>※「SBT 認定」企業が科学的根拠に基づき温室効果ガス排出削減目標を設定し、パリ協定の目標と整合させた国際認定のこと。</p>
<p>大内副主幹</p>	<p>はい、ありがとうございます。今、委員長と住吉委員のお話のとおりだと思ってございましたので、事業者の方はやはり直接的なインセンティブも含めてないとその動機につながらないのは、ご商売である以上、当たり前だと、そこをどう刺激していくかという部分も工夫の余地、実際にその事業を検討するうえで様々な形で実感をしているところでございますので、それプラス、そもそも地球温暖化や気候変動が進む中で事業継続に与える影響の部分もセットで計画書の中で今回訴えることで、それが表裏一体であれば、なおさら一緒に前に進んでいただくことこそが、両方一気に解決する一歩ではなくて二歩になる可能性あるよというような訴え方もありかなというところで、今ちょっとイメージができたところでございます。以上です。</p>

渋谷委員長	はい、ありがとうございます。他にはいかがでしょうか。
花澤副委員長	いいですか、今のところ。
渋谷委員長	はい、花澤委員。
花澤副委員長	<p>省エネ診断サービスの話はアンケートにも載ってましたけども、おうしゅうエコ事業所においてもほぼ半分が導入しないと回答してまして、条件次第で検討するとかじゃなくて、もう導入しないという回答になっているんですけど、やっぱりアンケートをもうちょっとしっかり見て、なんでこの人たちは導入しないと言っているのか、その原因が、例えば今回のアンケートではひっくるめて導入しないのは何でですかというふうに聞いてますけど、一個一個聞くと多分原因が違ってくると思うんですね。断熱とかだったらお金がかかるってわかるんですけど、省エネ診断サービスはお金がかからなくてももしかしたら導入しないって言っているのかもしれないし、今回のアンケートでじっくり見ると、これが高かったとかっていうだけのまとめ方じゃなくて、思ったよりも導入しないっていうふうに出している企業が多かったとか、さまざまな角度からアンケートが見えてくると思うので、そこはそれぞれの取り組みのときにアンケートをその都度開いて結びつけていくんじゃなくて、ある程度方向性を決めるためにもなるべく早くアンケートから得られたデータっていうのは分析してまとめて皆さんの方にお示しいただければなというふうには思っています。</p>
大内副主幹	<p>はい、わかりました。アンケートの調査の報告書かなり膨大ですので、基本的には分野別環境像ごとに考えていくということで、当然皆さんがおっしゃる関連性についても踏まえながらではありますが、その辺りについては多少のお時間をいただくということについては申し訳ありませんが、ご了承いただきたいというのと、省エネ診断のお話が出たのであれですけども、例えば省エネ診断だけをしないということと絡めるとそういうお返事が来るときに、では市はどういうふうな作戦を打つかというのちょっと考えてはありますが、今明かしてしまうわけにはいきませんので、それについてはWGとの方で商工労政課などの担当と相談している部分はあつたりしますので、その中でそれが実現可能な中身なのかどうかということも兼ね合わせた上で、結論に近い形で案としてお示ししていくというのを後ほどということをお願いしたいと思います。</p>
渋谷委員長	はい、ありがとうございます。アンケートの分析の見方というか、その辺のご意見だったと思いますけどね、参考にしてもらえればと思います。他にはいかがですか。ちょっと先に進むんですけど、どこまで説明しましょうか。

大内副主幹	36 ページまでは今のお話の部分の中身にしかありませんので、そこを飛ばしていただきまして、もしよろしければ。
渋谷委員長	先の方進んで説明をお願いします。
大内副主幹	<p>はい、ありがとうございます。それではごく簡単になりますが、スライド番号は37 ページで別添資料1 のとおりということで、こちら目次のような形で先ほどお渡ししておりました。こちらについては、これで決まりというわけで当然ないんですけども、計画の全体的な構成を、把握していく上で、こういったものかなというのを事務局として地図のような形で必要になりましたので、仮にということで作成させていただいたものでございますので、これは後ほどまた内容がはっきりしていくのに合わせて変わっていくものということでご理解いただければと思います。中身については今までご討論いただいたとおりでございますので、続いて38 ページに進んでもよろしいでしょうか。</p> <p>(6) 環境指標の構成についてでございます。こちら先ほど委員長の方から、その指標の置き方についてということでご指摘があった部分について、今回、先ほど例示しました状態指標等について、実は市の総合計画との整合性を図る上で、今回その総合計画の方で指標につきまして3つ構成をなされております。1つ目が状態指標、2つ目が成果指標、3つ目が活動指標でございます。先に、成果指標につきましては、先ほど委員長おっしゃっていたとおり、どう頑張ってもその成果が現れたのかというのを拾えるような指標ということでご考えたところでございます。3つ目の活動指標につきましても、成果を出すためにどのような取組、どのような活動をしたのかというのがわかるような指標ということでございます。</p> <p>成果指標につきましては、地球温暖化分野というところで、例として、省エネ家電買換促進補助事業のような補助を行うことというふうな取組を掲げていた場合に、成果として、その事業によって買い替えた家電による温室効果ガスの削減量や年間消費電力の削減量などが成果として現れてくるものというふうに位置づけております。</p> <p>活動指標としましては、同じく、例えばその補助事業であった場合には補助金をご利用いただいた方の数ですとか、補助金の交付額などが活動したその成果ということで位置づけられるものと思います。</p> <p>その今回の部分で、一番特徴的でありましたのが、一番上の、状態指標でございます。こちら総合計画でも設定する予定ということで、その下位計画であります本環境基本計画でも同様の機能を落とし込むために設定しなければならないというところでご考えているところでございますが、こちらにつきましては委員長の方でお話しされたおり、先ほど出していた例示が、市役所とか市民の取り組みだけでは直接コントロールできないものをあえてその分野の方向性を探るために設定するというところでの状態を表す指標ということでの位置づけだそうでございます。分野別環境</p>

	<p>像や環境目標が対象とする分野の現在の状態をモニタリングする指標ということのようでございます。社会経済とか、あるいは国などがまとめるような大きな指標ということになりまして、これにつきましては行政が行う施策や事業などでは直接的な因果関係や影響度が不明なので、良くしたり悪くしたりということがコントロールできない指標というのをあえて設けるということでございました。</p> <p>例として地球温暖化分野におきましては、市域内の温室効果ガスの排出量でございますとか、市域内の電力消費量ということで市役所だけでは、上がり下がりとか、多くしたり少なくしたりということができない指標をあえて設ける、それによって事業全体、分野全体の動向を客観的に把握するというところで、成果指標とは別に設けたいということで考えていたところでございます。ここまでで一回よろしいでしょうか。</p>
<p>渋谷委員長</p>	<p>今のちょっと新しい概念だと思うんですけど、指標のあり方についてとか、その前もご意見等ありましたらいただきたいと思えます。何かございますでしょうか。</p> <p>ちょっと質問なんですけど、市の上位計画の総合計画でもこの状態指標が入ってくるということなんですね。</p>
<p>大内副主幹</p>	<p>はい、そのとおりです。</p>
<p>渋谷委員長</p>	<p>これは国の方だと、生物多様性の計画なんかだとこんなのが書いてあるような気がするんですけど、最近はこのやり方が多くなっているのでしょうか。</p>
<p>大内副主幹</p>	<p>はい、総合計画の方が若干先に走っておりましたので、(環境基本計画は総合計画の下位計画ではありますが、総合計画の中にいかに同調性をもって位置づけるかという部分で、この部分は指標を揃えるということで、そういう部分の効果を期待しているところでございまして、こちらについても総合計画が先に走っておりますので、おそらく最新のやり方、私も今回の指標の設定の状態指標という部分については、実は初めてでございました。</p>
<p>渋谷委員長</p>	<p>ありがとうございます。</p>
<p>若生委員</p>	<p>ちょっと全然関係ない質問であれなんですけど、庁内のいろんな担当課の人と今回の基本計画の話をしている時の熱量はどのくらいとか、みんな「なんか俺にも関係あるな」ってちょっと5割思っているのか、「呼ばれたから行ったんですけど」って4割くらいなのか、質問してもいいですか。</p>
<p>大内副主幹</p>	<p>各課それぞれ、燃料は満タンのところであると認識しております。そこに、着火できるかどうかにつきましては、今後の私ども事務局の対応次第かと思っております。</p>

<p>渋谷委員長</p>	<p>すので、頑張りますので側面支援、もし機会ありましたらよろしく願いいたします。</p> <p>他にはよろしいでしょうか。中途半端になってすいません。1時間半過ぎちゃったのでちょっとお休みを入れたいと思います。50分再開でちょっと休憩をして、残りあと少しで終わると思うんですけど、よろしく願いします。</p> <p style="text-align: center;">(休 憩)</p>
<p>渋谷委員長</p>	<p>再開したいと思います。今39ページまでだけど41ページまで時間かけて、ちょっとそこを見ていただいてご意見いただければと思います。イメージとしては41ページの方に状態もたぶんこんな感じっていうのが出てますけど、なかなか難しいですね。大変かもしれませんね。何かご質問とか、ご意見ありましたらいただきたいと思います。</p> <p>さっきちらって言ったんですけど41ページのところで成果指標で熱中症搬送者数っていうのがあるんですけど、どこだったかな、盛岡市だったと思うんですけど、前これを出してたんですけど今回やめたんです。搬送者数をどこまで減らすかっていうのはちょっと出せないんですよ。減らすのは減ってほしいのはわかるんですけど、その年の暑さによってこんなになって変動しちゃうっていうことなので、別のものに変えた気がするんで、他の指標があるかなって気がするんですけど、具体的な話はまた個別具体であると思うんですけど、イメージとしてはこんな感じっていうのかなと思うんですけど。はい、花澤委員。</p>
<p>花澤副委員長</p>	<p>指標のところでちょっとイメージがわからないので質問しますが、成果指標、活動指標、状態指標を含めていくつぐらいずつこれ設定しようとされてるんですか。</p>
<p>大内副主幹</p>	<p>はい、ありがとうございます。まず状態指標につきましては、基本的には分野別環境像ごとに、なので、最小で6つになります。書いておりますとおり、分野間で、どういう指標かまだちょっと決めていないところであるので、関連性があって、同じものが該当するというのもあると思います。地球温暖化と気候変動のあたりとか、ある可能性ありますので、その場合には同じ指標を置いても構わないというふうに思っております。成果指標とか活動指標につきましても、どういう取組をその分野で一番に頑張っていくか、濃淡があるわけで、全ての取り組みや施策一つ一つに全て指標を設けるのではなくて、よりその広範かつ効果的な指標に絞った上で載せるということを考えております。なのでこれもまだ具体的に考えているわけではないという前提ではありますが、成果指標よりは活動指標の方が多くなる可能性は高いと思っております。</p> <p>逆に、地形温暖化分野の区域施策編と事務事業編の場合、事務事業編の方は成果</p>

	<p>指標を置きやすいです。自分たちでエネルギー量から点数つけられますので、逆に言うと区域施策編の方は、実際、推測値でしか排出量とかは国も含めて公表されておりませんので、これは成果指標ではなくてほぼ状態指標に動いていくという可能性があるかなということに現在想定しているところでございます。</p> <p>なので、数ということにおきましては、一番少ないのは状態指標、次は活動指標の方が多分野と成果指標が多分野というふうに、そこはちょっと分かれてくるかなということに今の段階では想像しているところでございます。</p>
<p>渋谷委員長</p>	<p>はい、お分かりになりましたでしょうか。</p>
<p>花澤副委員長</p>	<p>最終的に市民が動くにあたって見るところは、目先の活動指標のところになるのかなと思うんですけど、その活動指標をあまり細かくしないと今おっしゃられたんですけど、例えば主体ごとに学校だったり企業だったりのように主体ごとに設定するのか、もしくは製造業とか運送業とかというような職業ごとに設定するのか、多分いろいろ指標の設定の仕方ですら市民の動きやすさが変わってくると思うんですけど、その辺はどのように考えていらっしゃるのでしょうか。</p>
<p>大内副主幹</p>	<p>今の部分で申し上げますと、取組の主体ごとに、指標を設けるかどうかという部分の質問というふうにお受けしたんですけども、まずは、主にその指標として市が、毎年度出している環境報告書のような形で、公表可能な指標の取りまとめというのが一つ指標の設定の上で重要な要素となっております。市が把握できる KPI であるからこそという部分が、そこは、市民と事業者の方を主役とはしつつも、市が公表する資料としてある以上はその部分を重要視せざるを得ませんので、例えばその環境学習であった場合には、その参加者数を活動指標とすることで、一方で市民から見ればもっと増やしたい、このぐらいやっていたのねとか、そういうふうな見方もできると思いますし、市としては、施策として環境教育や環境学習の場をどのぐらい設けることができたかというような形で、その参加されるそれぞれの皆さんがその指標を見て、そういう形で自分の立場からの評価もできるような指標を選べればいいなというふうに今は考えているところです。</p>
<p>花澤副委員長</p>	<p>多分実質そうやってやるのが現実的なのかなと思うんですけども、ただその環境学習の参加者が 1,000 人増えました、1 万人増えました、それが成果指標や状態指標に本当に関係してくるのか、どのぐらいのレベルで関係してくるのかっていう根拠みたいところをあらかじめ抑えておかないと自己満足的な指標になってしまうリスクはあると思うので、ぜひその関係性を抑えていただければと思います。</p>
<p>大内副主幹</p>	<p>すいません、関係性というのはベースになるラインの数字として把握しておくことということでいいでしょうか。変化が生まれた、変化の幅を把握できるようにと</p>

花澤副委員長	<p>いうことですか。</p> <p>その変化、例えば環境活動の参加者数が増えることで本当に状態指標に影響があるのかということはそもそもですし、じゃあいくら増えればどの程度、状態指標に影響が出てくるのかという関係性の話です。科学的な根拠っていうんですか、あればですけど、ないのがほとんどだと思うんですけど。</p>
大内副主幹	<p>今、最後お話しあったとおり、状態指標に関してはその施策の動向以外の分の作用を受けて、上がったたり下がったり、増えたり減ったりってなると思っていますので、どちらかという状態指標はその分野の雰囲気を探る指標ということにしてにおいて、成果に対してのどのような活動を行ったかという部分であろうかと思えます。一方で成果指標が準備されておりますので、成果指標として環境人材の分野で置けた場合には、その成果指標の上下に対して、活動指標が作用したというふうな関係性になれば、いいのかなと思ってました。</p>
渡邊登委員	<p>私もちょっとこの環境指標全体の関係性というのは今一つ見えにくいと思ってまして、実際にこの順番でいうと、実際には何らかの活動をしたことによって成果があると、状態指標というのはどっちかという予見ですよ、今のところ何にもできないので。もちろん全体の施策、あるいはグローバルな施策があって、それが成果が上がったら年間平均気温を維持できたとか下がったとかね、というのは全体的な状態指標に影響を及ぼすんですけども、我々の市の活動ということでは、どちらかという状態指標はあくまで予見というかと与えられたもの、だから環境変数みたいなものですよ。活動指標があって、それで何らかの成果が、例えばクーリングシェルターの設置箇所を増やしたことによって熱中症の発症者数が減るとか、そういう順番じゃないですか。何かちょっと見えにくいのは活動指標が真ん中っていうか、成果がっていうのが、今、花澤委員がおっしゃったように、例えばこれはいろんな市なんかでも指標を設けるときに参加者数とかでよくやるじゃないですか。でも参加したからどうなっているのか、それで何の成果が現れたのかっていうのが見えません。だから、それではやっぱり順序が逆なので、どっちかという説明されるものってのは成果指標なんです。説明するものは活動なんです。だから、ちょっとこの順番、その繋がりが見えないと読む側としても読みにくいというか、どうしてこうなっているのかというふうになると思うんですよ。だから、説明するものとされるものって順序が逆だということが私はどうも感じてしまうんですが、日常的な思考パターンから言うと違うので。ただ、国はこういう指標、この順番でやってるんですか。</p>
大内副主幹	<p>市が現在策定作業を進めております市の全体の総合計画、一番最上位の計画ですね、そちらの方でこういった形で作業を進めるところです。</p>

渡邊登委員	<p>なんでこういう順番なんですかね。よくわからない。つまり説明するものとされるものというか、説明するものが先で、説明されるものが後になるというのが指標なんですね。うちらは変数って言いますが、だから説明するものが活動で、されるものが成果なんです。だから、なんか順番が逆なので、どうもよくわからないという素朴な印象です。</p>
大内副主幹	<p>はい、ありがとうございます。状態指標のその位置づけとか、正しい書き方について私はまだ勉強中でしたので、実際に、もうちょっと文章というか紙面上での表現とか、そういったものが加わっていくと、ご理解に寄与するのかなというところでもありますけれども、現時点であくまで、その3つの指標の種類は、総合計画との関連性とか、機能をお互いに高め合うために、3つの種類の指標の置き方についてだけは、あらかじめご了承ください。ただ、どのように説明するか、実際にその総合計画の方もまだそういった踏み込んだ形での紙面ということでの構成までは行っておりませんので、それと合わせて、実際に GX とか生活環境課の方で、両方の総合計画の方の環境分野にも、環境基本計画の方にも筆を走らせていくということになりますので、それら全体的なその総合計画の構成の中身を踏まえながら、そこは整合性としていくようにしますので、そこをもうちょっと、お時間いただいて、実際に読んでいただいた時に、これならこう書いた方がいいと思うよということであれば、場合としては環境基本計画の方については、そういったご意見を踏まえて、より読みやすい計画書ということであれば、実現も可能かなと思いますので、現時点では全体像、私もその総合計画もまだ見えてなかったのですが、ただ指標の種類だけはこういった形ということでの指示がありましたので、それは踏まえざるを得ないというところでした。</p>
渡邊登委員	<p>指標が間違っていると言っているわけじゃなくて、関連がこれではちょっと見えないなということです。関連というのは今言ったように、活動の成果があるというのが普通の考え方なので、それがわかるように図もそういう形にしてもらった方が、パッと見てわかるんじゃないかなと思いました。私これ見てみて、何を言っているのかよくわからなかったのですが、順番がね、全然違うのかなというのがあったので、見てわかるようにしていただければというのが希望です。</p>
大内副主幹	<p>今、渡邊委員がおっしゃったのは41ページですよ。</p>
渡邊登委員	<p>そうです。</p>
大内副主幹	<p>その右側のところの関係、状態指標とか並び順とかということですね。分かりました。</p>

渡邊登委員	38 ページですか。
大内副主幹	<p>いえ、41 ページで結構です。一応、状態指標が総合計画の方のイメージだと、要はベースなんです、その分野の現状を表すベース。それに対して課題があるために、課題解決のための活動を行って成果が出て、成果の蓄積が課題を解決するというロジックになろうかと思います。</p> <p>これ作った時の私の頭の中が今こうだったというだけなので、ご意見を踏まえて、そのとおり紙面という形で縦書き等を組み直した時には、当然その関係性はもっと分かりやすくなるように時間をかけさせていただくということで考えたいと思います。</p>
渋谷委員長	はい、ありがとうございます。総合計画が先に動いているのであれば、そういう指標のイメージが出てくるとありがたいです。
大内副主幹	そうですね。
渋谷委員長	他にはよろしいでしょうか。ちょっとまだよく分からないところがあるので、もう少し時間がかかるかなと思います。一応、ここまでで計画については指標まではできたと思うので、次に削減目標とかについての説明をお願いいたします。
大内副主幹	<p>ありがとうございます。それではスライドの右下のページが 42 ページから 45 ページまででございます。第 2 回の委員会の方でご説明しましたとおり、グラフ及び削減政策の積み上げ等を含めて、現在の状況と合わせて目標まで、区域政策編の CO₂ 削減目標と事務事業編の CO₂ 削減目標についてご提案をするところでございます。</p> <p>はじめに区域施策編でございます。グラフの方、42 ページの方でございますが、簡単に申し上げますと、様々な削減の政策を積み上げましたが、全く足りておりません。正直に申し上げて全く足りてございません。ではどうするかという部分ですが、国の方で地球温暖化対策実行計画の方で示されている省エネ等の対策、あるいは市民アンケート等から取組の状況を踏まえた排出量の削減状況だけ積み上げると、およそ 19%程度しか減らないということになってしまいます。残りの部分、2030 年、県が 57%削減の目標を掲げておりますので、国は 46%、および 50%に向けて野心的に取り組んでいくという目標でございましたが、県の方が 57%の削減ということで、42 ページの棒グラフの将来推計、2030 年というところのオレンジ、明るい紫の部分のところをご覧くださいとお分かりになるんですが、積み上げても足りない分がかなりの量あるということになります。78 と 111 ってありますが、こちらがトン数 (t) でございます。7 万 8 千トンと 11 万 1 千トン、さらに削減をせざるを得ないということになりますので、この部分につきましては、まずは目標ということでは高い目</p>

標とはなりますが、掲げつつ、国等がまだ出していないその他の施策、市民をはじめ市役所も含めて再生可能エネルギーへの切り替えとか、さらなる取組、国が想定する以上の取組を皆さんに進めていただくざるを得ないということで、現時点では考えているところでございます。こちらのグラフの行き着く先が、2050年実質ネットゼロということでカーボンニュートラルということで挙げております。森林吸収量の19万6千トンにつきましては、農地林務課の方からご提供いただきました市内の森林簿の樹種、樹齢等を基に算出をしたものでございます。森林面積はずっと変わらないという前提で試算したところでございます。19万6千トンをあらかじめ引いてもどうしても足りないというところになりまして、43ページの、今回の計画は2036年度が計画最終年度でございますので、国、県の具体的に掲げているのが2030年度と2035年度でございました。2031年度と2036年度につきましてはグラフからの推計ということになりますが、それぞれ43ページ左の表のとおり、2031年度、県は60%、2036年度、県は75%の削減をしないと、グラフの直線で表される2050年カーボンニュートラルには行かないということとなっております。右側、43ページの右側の表につきましては、それぞれの年度、達成できるとしたらこのぐらい減らさなければなりませんよということと合わせて、こういったことの取り組みをしていかざるを得ませんということでの記載をごくごく簡単にさせていただいているところでございます。こちらが区域施策編でございます。ちょっとグラフが県目標と国目標と様々書き込んでありますのでちょっとわかりづらいんですが、左下43ページの右上の表の方が数値的に切り出した部分ということになります。

もう一つ、事務事業編、市役所が排出する状況の部分でございます。44ページでございます。こちら、2024年度の現況が17,480トンまで減りました。2013年度基準としまして、対比で45%オフとなっております。こちら現状の第2次奥州市地球温暖化対策実行計画（事務事業編）におきましては、2030年度に県と同等の57%オフを目指しておりますので、現状のまま直線で描きますと、2013年度の排出量の相当の分で残り12%、3,787トン削減すると、一応、2030年のゴールは達成できる、中間地点は達成できるということでございます。そこから2050年までグラフを伸ばした場合、44ページのグラフは2036年度で一回止まっておりますが、それぞれ中間年度の2031年度には62%、2036年度、計画最終年度には72%のオフを行わないと、2050年度のカーボンニュートラルはなかなか難しい状況になってしまうということで想定をしたところでございます。45ページの左上の表に今申し上げました数字の切り出しを行っております。2030年度が57%といたしますと、2031年度と2036年度は62%と72%ということでございます。目標の達成のための削減内容につきましては、事務事業編でございますので、市が事務事業、仕事で使う公用車、施設等をはじめ、省エネ化、再エネの導入、その他ということで、それぞれ削減に寄与する行動をとっていく必要があるというところでございます。

これら全て踏まえまして、45ページの下のところのオレンジ色の表でございます。本計画、今回の環境基本計画における区域施策編と事務事業編の削減目標の設定に

	<p>については、より高い数値ではありますが、県目標との整合性をそれぞれ図りまして、区域施策編については2031年度中間年度で60%、計画最終年度の2036年度で75%、事務事業編におきましては、同じく中間年度で62%、最終年度で75%の目標を掲げさせていただきたいと考えております。これを下回る目標を掲げた場合に、2050年までの直線の角度がかなりきつくなりまして、かなり厳しい状況になるということですので、それぞれ、意欲的に取り組むという意味でも、かなり厳しい目標ではありますが、高い目標を掲げさせていただくということを事務局案として提案申し上げるところでございます。以上です。</p>
<p>渋谷委員長</p>	<p>はい、ありがとうございます。ただいまのご説明についてご質問ご意見ありましたらお願いいたします。</p>
<p>若生委員</p>	<p>なかなか掲げた目標に向けて具体的に何をするのかというのが、それを考えるとなかなか大変な部分もあるんだけど、目標値はここの説明はわかりました。森林吸収量に関してなんですけれども、森林面積は変わらなくても、森林の状況が変わると吸収量が上がるという可能性があるのではないかなと思うんですが、その辺のところはお考えにはならないんですか。</p>
<p>大内副主幹</p>	<p>それらも含めて、19万6千トンが現在の木の種類、樹齢からすると限界ということでの試算をさせていただきました。</p>
<p>若生委員</p>	<p>例えばなんですけれども、ある程度大きくなると吸収量固定されるけれども、新たに切ってまた植えてってということで、吸収量がさらに上がるような施業が奥州市の中で進めば、ちょっと数値が変わる可能性もあるんじゃないかなって部分と、さっきの出た森林に関する手入れができないって問題も解消に向かうかなって部分、ちょっと希望的観測があるといいなと思いながら今ちょっと質問したわけなんですけど、その辺は何かお調べになった部分はありますか。</p>
<p>大内副主幹</p>	<p>(森林の) 施業に関する部分については、今イメージの中では J-クレジットに出している市有林の部分ということになるかと思えます。ただ、その部分については、前回の委員会で委員長からお話しあったとおり、クレジット化するレベルの調査を毎年度行わなければならないということになっております。現在の森林経営計画については徐々に地元の林業従事者の方のご協力を得て、おそらくこれから徐々に増えていくところと、計画ができればそれに対しての施業も行われていくところというところでもありますので、その部分の広がりについては、ごく最近手をつけ始めたばかりというところでもありますので、この計画で今の段階でそこまで効果があるとして見込んでしまうよりは、例えば中間年度とか、あるいはもうちょっと計画年度が進んだ先に、どの程度の一定程度のクレジット化に資するレベルの施業が行わ</p>

	<p>れているかというのを見直した上で、計画内の効果として、成果として取り込んでいけるかどうか、そこでもう一回考えた方がいいかなと思ったところです。現段階ではそこまでの効果を数値的に大きい数値が出るほどの施業はまだ進んでおりませんでしたので、その部分についてはちょっと年数が必要になると思っていました。</p>
渋谷委員長	<p>はい、ありがとうございます。他にはいかがですか。</p>
住吉委員	<p>すみません。素朴な質問なんですけれども、オレンジ色の国が想定する省エネ対策、市民アンケートの結果に基づく再エネ導入時の排出量以外に、例えば人口増減ですとか、例えばですけど、ハイブリッド車がどんどん進む、それももしかしたらオレンジ色に入るのかもしれないですけども、自然減的なものとかってというのはどこかに含まれているんでしょうか。</p>
大内副主幹	<p>はい、区域施策編 42 ページのグラフの方でございます。今回の各年度の排出量につきましては、前回でご説明したとおり BAU 推計ということでやらせていただいております。なので、人口の減については織り込み済みで、製造業はアップ、徐々に少しずつアップするというのでやっております、実はその BAU 推計によりますと 2050 年まで 5% ずつ増えていくという計算をせざるを得ない状況になっております。なので、毎年度のパーセンテージは何% ということで出ておりますが、実は減らすトン数でいうと、実は毎年度ちょっと本当に頑張らないとダメですよという状況になっております。なので人口減につきましては計算の中にあらかじめ入れさせていただいております。</p>
住吉委員	<p>ありがとうございます。もう一点、排出量が森林吸収量と同等になれば 19 万 6 千トンまで減らすという目標は物理的に可能なんでしょうか。</p>
大内副主幹	<p>はい、GX 担当としては可能と申し上げておきます。</p>
住吉委員	<p>ありがとうございます。あとはどれぐらいその施策をやっていくかということですね。</p>
大内副主幹	<p>そうです。</p>
住吉委員	<p>何かその、全国的にそれが推進できて、ものすごい成果が上がっているところはなかなかないと思うんですけども、何か今までの取組み、全国の事例も含めて、何かこういうことをやったらという大幅に削減できるような取組とか考えていらっしゃることはあるんでしょうか。</p>

<p>大内副主幹</p>	<p>はい、ありがとうございます。ちょっと具体的な例となりますが、市の施設の太陽光設置のポテンシャル調査の方を令和6年度に実施いたしました。その結果、市の主な施設で、およそ17年間で設置した費用が回収できる施設ということで、23施設ピックアップされてはいるんですけども、実はそこから出る排出削減効果量はおよそ6トン余りしか実はないんですね。</p> <p>一方で、市の事務事業編は今回大きく、去年35%ですが10ポイントぐらい大きく減らすことができているということが出ております。これの主な理由は、業務の効率化と施設等の効率化で大幅に省エネが進んでいるということが市の場合は寄与したところでございます。</p> <p>なので、まずは再生可能エネルギーを導入する前に、最大限省エネ化を進めて、エネルギーの分母を一番とにかく小さくして最大限効率化を図った上で、再生可能エネルギーの導入割合を増やしていくというのが本来セオリーだと思っておりますので、まずはそのセオリーをしっかりと守りつつということになろうかと思っております。なので、一番は再生可能エネルギーとかペロブスカイトのようにニュース性のある最新技術の導入を当然方策の一つとして考えつつあるのは重要なことであると思いますが、それ以上に、その施設、設備とか、あるいはエネルギーの消費についての効率化をしっかり図ることが重要と特に事務事業編では分かってきましたので、それについて、さっき一個前のお話に出てきた省エネ診断も含めて、企業の経営の効率化、エネルギー消費量、コストの削減を図ることを地道にやっていくことこそが、最大的に効果を実際に最後が現れてくるのかなと想像しているところです。</p>
<p>住吉委員</p>	<p>ありがとうございます。今日ちょっとお話ししようかなと思った中で、以前、個別にちょっとお話しした地域ぐるみの脱炭素経営支援体制構築モデルという環境省が進めているものが、今、脱炭素先行地域は今年からやめたんですね、あそこはもう補助金があったのであれがいいんじゃないかなと思ったんですけどもなくなって、今、環境省が進めているものでいうと「地域ぐるみ」が一番になっているような話があるので、その「今治モデル」というのがあって、それが地域の金融機関、あそこは伊予銀行と、あとは東京海上日動、あとは商工会議所、あとは自治体も一緒になって、いわゆる今話し合っている議論している内容を誰がどう広めていくかっていうと銀行であったり、大手損保であったり、商工会議所と市と一緒に連携して大きな目標を掲げた上でそれを広げていくってということからすると、いわゆる取組の面積が広がっていくんだらうなど。</p> <p>一つはうちも今入れる予定なんですけど、アクセルトレーニングっていうのを東京海上日動がやっていて、何かっていうと時速20キロになるまでに5秒間かけましよう。それを車に取り付けてそれが本当にできているかどうかってことを測っていくと。それを取り付けてやると燃費がだいたい15%ぐらいは改善されるので、それで排出量が削減できて、脱炭素につながりますよってということと、あ</p>

<p>大内副主幹</p>	<p>とはガソリンを使わないのでコストが下がりますよねっていうことと、あと事故が数パーセント下がるっていうことがあるので、経営にとってもものすごくいい取り組みになっているっていう。</p> <p>岩手県、今、今日でしたっけ、死亡事故が 200%でしたよみたいなニュースもありましたので、そういうことも絡めてやると、市民環境にとってもものすごくいい取り組みじゃないかなというふうに思いつつ、今日ちょっと提案をしようかなと思ってたんですけど、ただ削減しなきゃいけない CO₂ の排出量が巨大なので、啓蒙でいいのかっていうような危機感も抱きつつ、ただやれることをしっかりやっていくっていうことは、一つの重要な取り組みだと思いますので、お調べいただけたらと思いますので、よろしくお願いします。</p> <p>具体例のご紹介いただきまして、大変ありがとうございます。小さいからとか大きいからではなくて、ものすごくいい取組だと思いますので、例えばその一つを、多くの事業者の方が心がけていただくだけで、市の外に出るお金が減って、さらに経営に良い影響があつてという副次的な効果も含めて、そういった部分も先ほどの社会、経済、環境というリンクの様子の一つの実例だと思いますので、そういったところも具体の取組等で表していければなと思ったところでございます。</p>
<p>住吉委員</p>	<p>地域ぐるみは去年いろいろ大きな銀行ですとか県ですとか、そのところに働きかけながらやりませんかなんて話をしたんですけど、やっぱりその運営主体者が自治体か金融機関が成り得るという話らしくて、東京海上日動さんともお話ししたんですけど、やっぱり自分たちは今治モデルの支援者の一つになっているんですけど、主体者にはなかなかなりづらいところがあつて、総論賛成なんですけど、自分たちが主体者になるかとかいうか、人を出せるかどうかとかいうところの、そこはきっと今どこもすごく大きな課題だと思うんですけども、そこがクリアできて進むのであれば、もしかしたら一つの解決策になってくるんじゃないかなと思いました。以上です。</p>
<p>渋谷委員長</p>	<p>はい、ありがとうございます。ご提案ということで、研究をしていただければと思います。</p>
<p>渡邊登委員</p>	<p>今の住吉委員のおっしゃっていたようなところと一緒になんですけど、大内さんがお答えになったことなんですけれども、省エネですよ、省エネというのはものすごく重要だと言われているわけなんですけれども、例えば奥州市内の小中学校、高校は市のということではないと思うんですけども、その辺すべて断熱をした場合に、どの程度エネルギー量を削減できるのか、CO₂ を排出削減できるのか、それはもちろん庁舎もそうです。そこら辺というのは、モデリングとかされていたりはするんですか。</p>

大内副主幹	<p>市内のすべての小中学校を含めて、そういった統一的な調査というのはこれまでやったことはないと思っております。ただ逆に言うと国の方からそういった大型の施設に対する省エネが、ZEBを目指すような形の事業が様々組まれているところではありますが、それについては今後、事務事業編の中で省エネという効果が持つ強さをWGの中で認識をしてもらいつつ、実際に工事に進むかどうかは別にして、国とかの交付金、補助金があるというような財政的な条件がクリアできたりすることができれば、調査ということでは可能なのかなと思いますが、ただ現時点ではこれまではそういった視点ではやったことはないです。</p>
渡邊登委員	<p>すいません。各庁舎、合併したところも含めて、そこら辺の断熱という形の計画というのはされたことはあるんですか。</p>
菊地委員	<p>調査担当ということでお答えしますが、調査というのは行っておりません。庁舎も、今5つの庁舎あるんですけども、建設年がそれぞれ、衣川が一番新しいんですけども、その他はご存じのとおり古い庁舎ということで、江刺が衣川について新しいのですが、調査ということは行ったことはありません。はい、以上です。</p>
渡邊登委員	<p>失礼ながらAIを使いながら各庁舎を調べてみたんですけども、ただ本当に正しいことがわからないので、しっかりした数値を、そこら辺、調査は何とかできるんじゃないかと思うんですけども、そこら辺が目に見える形で出していただくと、やっぱり市民としてもさらに意欲を出すんじゃないかと思うんですよ。まず市が率先して見本を出していただくというか。</p>
渋谷委員長	<p>はい、ありがとうございます。(学校など)避難所になっているところは特に、生徒さんたちの健康も含めて、まさにウェルビーイングですね。そういった観点で、既存の施設を見直すということはやっぱり重要なかなと思うんですよ。寒い中で生徒さんたちが我慢して勉強しているよりは、より良い環境で勉強した方がいいし、そこに逃げた時に逃げた人も健康が維持できるということにつながってくるので、全体を見ながらやる必要があるのかなという気がしますね。だから、環境対策というのは、CO₂を減らすということがあるんだけど、実はそれよりも健康とか、そういうところに寄与するんだということですよ。そういう考え方も入れていかないと、前に進まないだろうという気がします。</p>
若生委員	<p>今のことにも関連するんですけども、冬場と夏場、どんな状態の人でも快適に過ごせるようにというので、お家全部を立て替える補助金を出すというのは大変だと思うんだけど、例えば窓に関して一番熱が逃げる確率の高い窓のリフォームで断熱とか、逆に夏は涼しく過ごすリフォームに補助金を出すとか、かけるお金の額を</p>

	<p>少なくとも、全部は無理だけこの部分は快適に過ごせる、お家のシェルターみたいな感じの場所を作るための制度とか、工務店さん、事業所さんと一緒になって取り組んでみるとか、そういうことができないのかなというのが一つと、あと、アンケートと見たときに太陽光発電について、全く真っ二つの賛否両論が出ていて、いいのか本当に、使い終わった後の廃棄処理はできるのかという意見と、やっぱり進めた方がいいんじゃないかという意見と出ていて、今のいろんな技術が上がってきている現状で、実はどうなのというのを、実はみんなまだよくわからない状態にあるので、例えば今こう薄くて効率がいいのができたらいいとか、ちょっと何かで見た覚えはあるんだけど、それはどこまで現実的になっているのかとか、お家にそういうものを例えばつけたとして、自分の家で、太陽光で発電して、自分家で使う分は何かできるみたいな仕組みって、今の時代になったら未来のことじゃなくて実現可能なのかとか、その辺気になっている人は目にする情報なんだけど、そうでなければ届いていない情報をもう少し調べて、これは良さそうかもってのを教えてほしいなというのが今の私の気持ちです。なんかそういう思いって多分市民の人たちの中にもあるんじゃないかなと思うので、そういう情報も示しつつ、こういうことができますよという提案とか、こういうところを補助しますよっていう具体的な施策とか、そういう方向に行ったら嬉しいなと思います。</p>
<p>渋谷委員長</p>	<p>はい、参考までに。</p>
<p>大内副主幹</p>	<p>はい、ありがとうございます。住宅等の一部リフォームについては都市計画課の方でエコリフォーム補助金というのは実施中でございました。窓とかの断熱、玄関ドアの断熱とか、あと蓄電池の導入などということをやっていたかと記憶しているところでございます。</p> <p>あとその他、再エネ等に関する最新情報とか、あるいは利用に関する啓発などについては、様々な形が考えられるところではありますが、例えば計画書の中で、折々にコラムという形で、ちょっと興味を引くような解説が必要な言葉とか、そういったものを差し込んでいく予定も考えておりましたので、そういった中で触れるですとか、あるいはその再来年度以降、そういった分野に関わる環境学習の場を、めぐみネットさんと協力しながら開催をする、というような形で、企業のご支援や協働もいただきながら、最新情報の提供の機会を、多分そこら辺は啓発にならざるを得ないと思いますので、入れるかどうかは個人個人が決めることということになりますので、そういった啓発とか、情報提供の場を準備していくというのも、環境学習の一つとしてはありかなというようなイメージでいたところでした。</p>
<p>渋谷委員長</p>	<p>はい、ありがとうございます。他にはどうでしょうか。はい、花澤委員。</p>

花澤副委員長	<p>先ほど都市計画だったりとか健康だったりの話が出てきましたけれども、今回の環境基本計画の第1章の位置づけのところでもいいですし、第2章の個別のところでもいいんですけど、奥州市の他の計画と関わっているところは密接に、例えば健康増進計画とここはリンクしてますよとか、詳しいところはそっちを見てくださいますか、そういう形でなるべく力を抜いて、環境基本計画の方を作って、あとは他の計画とうまく見てくださいますね、みたいなやり方でも全然いいと思うので、とりあえずこの私たちの暮らしが環境視点だけじゃなくて、いろんなところとつながっているんですよっていうのが、環境基本計画を見ることで分かるような構成にしてほしいですし、そのためにも第1章の部分、それから第4章の部分ですか、推進体制、進行管理の部分充実して作ってほしいなというふうに思います。</p>
大内副主幹	<p>個別の計画の洗い出しについては、WGを通して行いたいと考えていたところの一つであります。今、話題にすごくなっておりまして、「環境のためだけに行う環境分野の事務事業はない」と担当の方では考えていまして、農業のために行う施策だったり、商工業の振興のために行う施策こそ脱炭素だったりという視点を当然最初から盛り込まないと持続可能な社会自体の構築が不可能ということで考えております。WG員にそういった視点を持っていただきながら各自が所管されている事務事業を見直していただきつつ、現行でもこれから策定でもいいんですが関連するであろう計画についての洗い出しも併せて行っていただくことで、総合計画の下に環境分野の最上位の環境基本計画がありまして、それと整合性を取ったり、踏まえたり、合理性を残す形で各個別計画が構成されていくことで、全体の事務事業に対して脱炭素だったりネイチャーポジティブだったり、あるいはプラネタリーヘルスといったような大きな概念が市全体の事務事業に浸透していくことを一つ狙っているところがございます。以上です。</p>
花澤副委員長	<p>それから先ほど断熱の話ちょっと出て、多分じゃあ断熱性能を調べてシミュレーションして熱の損失量を計算して、とかってやるのは面倒くさいし専門家に頼まないといけないんですけども、使用施設の床面積あたり使用領域あたりのエネルギーの消費量的なものは簡単に算出できると思うので施設の年間エネルギー消費量と使用エリアの使用人数だったり使用エリアの面積だったりからざっくりとこれ以上のエネルギーを使っているところは断熱性能が低いと思われるから省エネにもっと取り組んでくださいとかっていうふうな形で持っていくことはできると思うのでいろんな方向性で断熱も推進していただけたらと思います。</p>
大内副主幹	<p>そうしますと今の部分につきましては花澤委員のご協力をいただけるということでもよろしかったでしょうか。</p>
花澤副委員長	<p>より詳しい人を紹介できるかなと思います。</p>

<p>渋谷委員長</p>	<p>ありがとうございます。</p>
<p>渡邊登委員</p>	<p>断熱との絡みなんですけれども、どこかで高校生が自分たちで断熱をするっていうのをやっているのあるじゃないですか。全国の様々な小中高で進められるところがあるんですけど、子どもたちも参加しながら断熱化を図るといいうそういう運動としてですけど、グリーンピースがやっていますけども、そういうのを学校で取り入れるとそれでまた環境教育にもなるわけですよ。もちろん、今おっしゃった健康の問題、子どもたちの健康の問題っていうのはそこで図られるわけですし、災害時にはそこにまた避難することもできるというのが、高齢者のクーリングシェルターの役割も果たすことができるかもしれない。今までのエアコンがエアコンですっていうんじゃないくて、少ないエアコンで室温が保てるような形の断熱を図るといいうことの大事さをまた子どもたちも知ると、いろいろそういうことで環境教育にもなり、すごく進めていけばいいのではないかと思ったりします。</p>
<p>渋谷委員長</p>	<p>私の方から本体の方なんですけど、かなり野心的な目標だと思います。県南の市町村っていうのは人口があんまり減らない、それから大きな企業がかなりあって、工業団地があったりして、大規模な製造業なんかから排出がされるっていう、だから人口が減らないっていうのもあるんですけど、基本的にあんまり減らせない町が多いんですよ、金ケ崎もそうなんですけど、ただ大企業に関しては金ケ崎なんかだともうほとんどの企業さんがゼロエミッションになってきていて、もう再エネ電気に切り替えちゃったりして実質的な排出じゃないんですけどかなりかなり凝っているというので、目標達成 57%ぐらいまで頑張るといいうことだったんですけど、先ほどのお話だとむしろ増えちゃうという推計が出ていて、実際のところ積み上げたら全然到達できなくて、頑張らましようといいうだけなんです。極端なことを言おうと。具体的にどこでどのぐらい減らすかといいうのを明らかにしないと、絵に描いた餅になるだけといいうふうになってしまうので、具体的にどこをどのぐらい減らさなきゃいけないかといいうのを出していかないと、この 57%といいうのは区域施策編に関してはなかなか難しいんじゃないかと思っています。事務事業編は自分たちで努力するといいうのができるので、なんとかなるんですけど、実際のところ裏付けがあるんですよ。県もちゃんと裏付けをしています。大体これをしてこのぐらい減らすといいう目標をちゃんと書いてあるので、それを書いた時にどこまで本当にできるかといいうのをちょっと検討してもらわないと、できるんですかといいう話になっちゃうので、その裏付けですよ。市民に対して、ここを頑張ればちゃんと目標 57%削れますといいうのを出していかなくちゃいけないので、そこですよ。県北とか沿岸は人口が半分ぐらいになっちゃうので、黙っていても減っちゃうんですよ。極端な話、工場もない。人口が減ることによってポーンと減って、かつ森林がいっぱいあるから、どっちかといいうとマイナスぐらいになっちゃう。トータルすると県で 57%</p>

	<p>行けば基本的にはいいんですけど、県南はかなり難しい状況だと思うので、そこを踏まえながらちょっと検討しないといけないのかなということと、この計画はちょっと1年ずれているので、参考でもいいので、2030年度と2035年度の数値を出して、国とかの計画との整合がどうなっているかというのを出す必要があるんですけど、そこら辺の工夫ですよね。45ページのところを見ると、2031年度と2036年度の目標値が書いてある。これはこの計画の目標値ですごくいいんですけど、実は2030年は57%で事務事業編は少し高くなっているというふうになっているので、ちょっと工夫をしてほしいなということがあります。本当にできるんですかということところです。</p>
大内副主幹	<p>まず最初に、目標値の表示につきましては、2030年度と2035年度の分についても参考値ということで表示するようにしたいと思います。グラフから数字を拾いますので。また、1点目の施策の積み上げ、あと分野ごとの削減の見込まれる分ということについても、今回資料の都合上お出ししておりませんが、積算してはおりますので、その部分は実際に計画書等に表示する際には積み上げから見込まれる分と、そこから足りないので、さらにそれに各分野が取り組まなきゃいけないということを知っていただく上でも、その分についてはお出ししたいと考えているところです。</p>
渋谷委員長	<p>それは期待値も入っているということですか。</p>
大内副主幹	<p>国と同様の試算ということになりますので、国の方で地球温暖化対策実行計画では、そういう意味では期待値も含めて、例えば市民、個人個人がデコ活にどの程度取り組むと何トン減りますよというような試算がされておりますので、それを奥州市の人口に合わせて割り返して出すといったような手法を用いておりますので、期待値と言われれば期待値ではあるんですが、ただ推計を行う上でその部分は入ってこざるを得ないと認識しております。</p>
渋谷委員長	<p>はい、わかりました。道は険しいけど一応推計としては裏付けもあるということでもよろしいですか。</p>
大内副主幹	<p>はい。</p>
渋谷委員長	<p>ありがとうございます。他には何かありますか。はい。お願いします。</p>
住吉委員	<p>花澤さん、省エネ診断やられているんですけど。</p>
花澤副委員長	<p>はい。</p>

住吉委員	<p>省エネ診断すると、例えばこういう設備を付けて、遮熱することによって、省エネになりますよ、みたいなアドバイスもされるっていうことでよろしかったですよね。</p>
花澤副委員長	<p>省エネは事業所向けなのか家庭向けなのかにもよりますけれども、私は今メインとしているのは家庭向けの省エネ診断になります。</p>
住吉委員	<p>私も環境パートナーシップの森さんからやっていただいて受けたんですけども、我々幸い、いろいろなことをやっていたので、削減金額がほぼほぼないよという話で、がっかりだったのか、良かったのかわからないというところではあるんですけども、ただ、たまたまうちの会社自体は親会社があってというところで、社員の環境のためにこういうことをやりたいと言ったらそれなりのキャッシュは出してくれて、それが何年間で償却、(費用として) 支出する試算を出せばというところではあるんですけども、ただ一般的に省エネ診断すると、遮熱シートをつけて、そうするとこれぐらいの効果があると思いますよとかという話になって、それにはやっぱり 200 万、300 万かかっているとかというところで、そもそもキャッシュがなかなか難しいみたいな話になるので、だから診断すら受けたくないという話もあるのかなというのは話の中で思ったところです。</p> <p>今、ほとんどの金融機関で脱炭素ローンとかってやったりするじゃないですか。日々の毎月の電気代の支払額がこれぐらい減って、ただしローンの支払額がこれぐらいだから、そうすると差し引きで若干プラスなるよね、みたいな、そういった試算とかも出しながら併せて提案していくと、もしかしたら支出は実質的にはないんだみたいな、一旦、融資は受けるのでリスクはあるでしょうけど、実質リスクはなくて、社員の働く環境が整備されていくみたいなところを合わせて提案していくといいのかなと思ったんですけど、そういうことって今まではやられていたんですかね。</p>
大内副主幹	<p>はい、ありがとうございます。商工労政課の方からは省エネ診断と利子補給のような補助事業というのをリンクは今まではしていなかったというふうに聞いております。</p>
住吉委員	<p>もしかしたらそうすると、そういうところで精神的なハードルがあって、なかなか診断を受けるとするのは、要は「設備を入れろ」ってことだよ、いいのはわかるけど、そもそもなかなかキャッシュが出せないから、最初から受けるのをよそよそみたいな方(かた)向けには一つの出口戦略としてはあるのかなと思います。</p>
渋谷委員長	<p>はい、ありがとうございます。他にはありますか。</p>

花澤副委員長	<p>今のところ補足したいんですけど、やっぱり金融機関の役割ってすごい大事だと思うので、活動指標を考えるときにさっき主体別というお話があったと思うんですけども、金融機関というのを行政とか市民とかとは別にしっかり設けて、金融機関の役割とかっていうのを設定してあげた方が金融機関も参入しやすくなるのかなとは思っています。</p>
大内副主幹	<p>はい、ありがとうございます。今の点、金融機関の部分については、金融機関業界とこの話だけでダイレクトに今までしたことはありませんでしたので、現段階でこの計画に、金融機関というカテゴリーを設けるのは、今はちょっと難しいかなと思っていたので、その事業者の中でそのニーズとか、そういったのを表現する中で、金融機関の役割というのに何らかの形で触れるという、今はその程度かなというふうに思ったところでございました。市内に金融機関3つ4つあるわけで、そこと合意を取れていないままに計画書にダイレクトに盛り込んだとしても、そのご協力自体が当然伴わないわけだと思うので、そういった産官学金というこの「金」の部分、この部分の重要性については認識しておるところでありますので、これ以外の部分で様々な形でいろんなお話とかご協力はいただいているところありますので、計画の策定の本文にダイレクトに書いていなくても、実行の一つの取組としてはいろんな形が残されているというのは承知しておりました。本文に書くかどうかはまず別として、その金融機関との連携のあり方については、それは並行して考えているところでしたので、直接的に金融機関というカテゴリーを計画書のその取組の主人公、プレイヤーとして設けるかというところとちょっと今そこまではまだ考えていないところでした。場合によっては中間見直しとか、次期計画までの間に効果的な協力体制というのがあればいいなというふうに、考えているところございました。</p>
渋谷委員長	<p>私も花澤委員と同じで、金融機関の役割が非常に大きいとっていて、省エネ診断も実は金融機関が動いているんです。銀行さんが傘下のお付き合いのある企業さんに省エネ診断しませんかっていうふうにやっている時代に入ってきているので、やっぱり入れた方がいいのかなと思います。根回しじゃないんですけど説明を各銀行にすればご理解いただけるんだったら書いていくというようなスタンスで行ってもらえた方がいいのかなという気がするんですけどいかがでしょうか。</p>
大内副主幹	<p>本日ちょっと信用金庫さんがたまたまご欠席だったのでいらっしゃれば直接的なご意見を伺えたところではございます。現状、先ほど申し上げたとおり様々な形で金融機関の方々との協力とか協働のお話はいろんな形でいただいておりますので、その中で実現可能な部分を探りつつ、取組として計画に載せることが可能なものが出てきた場合にはそれは当然率先して載せていくというような形で、金融機関ということになると一番には商工部門の方の地元企業への結びつけというのが市役所の</p>

<p>渋谷委員長</p>	<p>業務としては、多分一番、金融機関と事業者と市役所という三角の中では大きいのかなというイメージもありましたので、そのあたりはWGの方でもちょっと検討してみてということをお願いしたいと思います。</p> <p>よろしくお願ひします。他にもいかがでしょうか。ということで時間もだいぶ経ったのでまとめに入っていきたいと思うんですけど、まず計画の方なんですけれども、様々なご意見いただきました。今後、計画案を市で作っていただくことになるんですけども、おおむねこの方向で進めてよろしいかということでご承認いただければと思うんですけどよろしいでしょうか。様々なご意見を踏まえて変更してもらおうということも含めて委員のご承認いただければと思います。よろしいでしょうか。</p> <p>《委員異議なし》</p> <p>ありがとうございます。</p> <p>続いて、区域施策編とかのCO₂の削減目標なんですけど先ほど私もちょっと確認をしましたが、実際に絶対に無理だという数値ではないということで県の方に区域施策編は合わせ、かつ事務事業編は少し越えた感じになっているという目標を設定されているんですけども、この辺についても、この目標を立てて具体的にどういうふうにやっていくかというのを組み立てていってもらおうということになるかと思うんですけども、この辺についてもご承認いただけますでしょうか。かなり野心的だと思いますけれども。</p> <p>《委員異議なし》</p> <p>ありがとうございます。</p> <p>それではご承認いただいたということで、それでは最後のその他について事務局で何かありましたらご説明をお願いします。</p>
<p>大内副主幹</p>	<p>ありがとうございます。それでは2点だけ、情報提供と今後のスケジュールについて簡単にご説明させていただきます。</p> <p>1点目です。昨年12月16日に奥州市議会建設環境常任委員会から奥州市のごみ減量施策に関する政策提言書をいただいたところでございます。循環型社会の構築等の関連する分野におきまして、こちら議会からの提言につきましても踏まえた形で進めてまいりたいと考えているところでございます。これが1点目です。</p> <p>2点目でございます。2点目はA3のカラーのカレンダーでございます、今後のスケジュールでございます。今回のお話の内容も踏まえまして、細かいところも手直ししつつ、いよいよ今後は具体的な内容についての文章等の作成に入ってもらいま</p>

<p>渋谷委員長</p>	<p>す。次回の委員会の予定でございますが、お時間をいただきたい部分もありましたので、当初の予定でどおり、7月の下旬頃を予定しております。年度が明けてからお部屋の予約等をさせていただきますので、日付決まり次第、改めて委員の皆様にお知らせを申し上げたいと考えてございます。それまでの間、分野別環境像ごとに様々な形で計画書の本文について、いよいよ文章等を構築してまいりますので、一つ一つの区切りごとに、参集形式の委員会ではなくて、資料をお送りする形で様々なご指摘とかご提案をいただきつつ、改良を加えながら全体の計画の構成を進めてまいりたいと思いますので、郵送等でお送りした際にはぜひご一読いただいでご協力いただきたいと考えているところでございます。以上でございます。</p> <p>はい、ありがとうございました。ただいまの説明について、ご質問ご意見ありませんでしょうか。私の方から一点だけ、奥州市の議会の方から政策提言が出されているということで、いろんなところをご視察いただいて提言されているところがあるんですけども、この中で特に提言3の16ページですかね、制度的な取り組みの検討という(3)なんですけど、この①にごみの有料化の効果と影響の調査というのがあります。</p> <p>一番最初の方で議論があったんですけど、ごみの削減、そもそも減らすという時に最も効果的なのがごみ袋の有料化なんです。今、岩手県は北上市だけ、唯一、一カ所だけやっているんですけど、全国を見てもう6割の市町村がごみ袋の有料化をしているということで、有料化率から言うと岩手県はワーストワンです。いろんな意味でワーストワンが多いんですけど、交通事故の死亡率とか、いろんなものがあるんですけど、他の市町村はごみの処理に関する公平性の観点から有料化を進めているということがあるんですね。簡単に言うと、たくさんごみを出している人も、ちょっとしか出していない人も同じ税金使って処理されている。たくさん出す人は、当然、処理費をたくさん出すべきだという根本的な議論から有料化が行われているということになるんです。だから、たくさん出す人が得しているということなんです。ごみを持つ費用も増えるし、有料化することによって分別が進むんですね。要するにごみ袋、ごみとして出たくなるわけなので、減らす努力をするということになってくるということ。そういうこともあるので、ぜひ環境基本計画の中でもこの提案たくさんあるんですけど、こういったものをきちんと踏まえて加えてもらえればなというふうに思います。これは希望なので特にコメントはいいません。はい、以上でございます。</p>
<p>4 その他</p>	
<p>渋谷委員長</p>	<p>他には何かございますか。よろしいですか。それでは、5時回っちゃったので、事務局から協議事項は以上で終了ということで、他に委員の皆様の方から質問はありますか。それでは、よろしいでしょうか。それでは大分時間が経ってしまいましたけど、本日の議事は終了します。</p>

	では事務局に進行をお願いします。よろしくをお願いします。
5 閉会	
及川主幹	<p>渋谷先生大変ありがとうございました。今、主題の「4 その他」でやっていただきましたので、ありがとうございます。</p> <p>それでは最後5番の閉会でございます。長丁場にわたりまして様々ご意見ありがとうございました。私どもの方でもまずは叩き台として今の資料を示しているところでございますので、ぜひ皆様方の意見で補強してまいりたいと考えておりますので、積極的にご提言お願いしたいと思っております。</p> <p>それでは以上をもちまして第3回奥州市環境基本計画策定委員会を閉会いたします。本日は大変ありがとうございました。</p>